

10396/22

中華書局

中華書局
教育出版

理學士富士谷孝雄講述



如氏地理教科書

東京

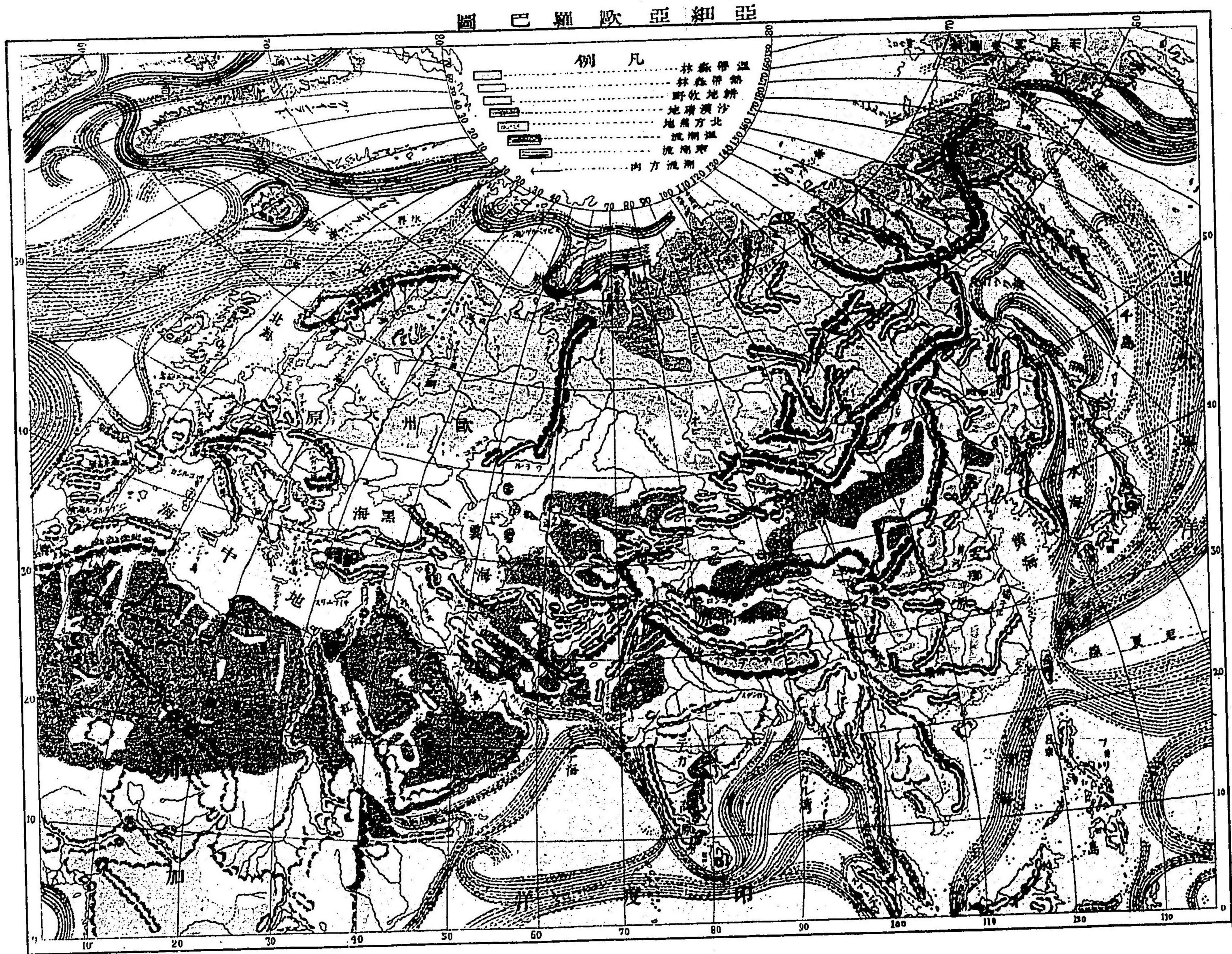
由田老鶴圖



中等教育如氏地理教科書第二帙第二卷

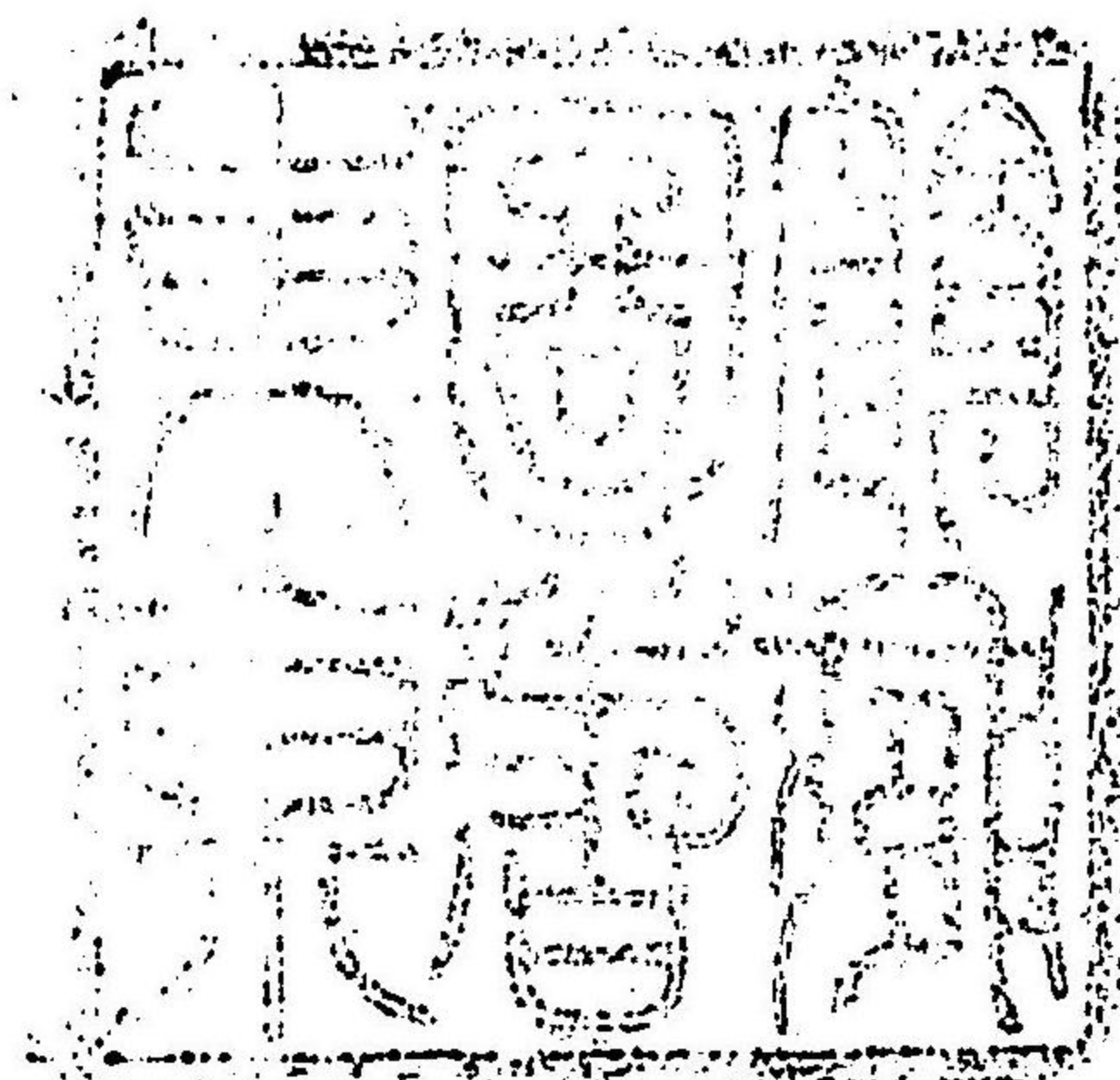
目錄

支那帝國記	三〇九丁
朝鮮國記	三五九丁
安南國記	三六五丁
南交趾支那記	三七〇丁
東蒲塞國記	三七二丁
暹羅國記	三七四丁
緬甸記	三七七丁
巫羅加記	三八五丁
英領海峽殖民地記	三八六丁



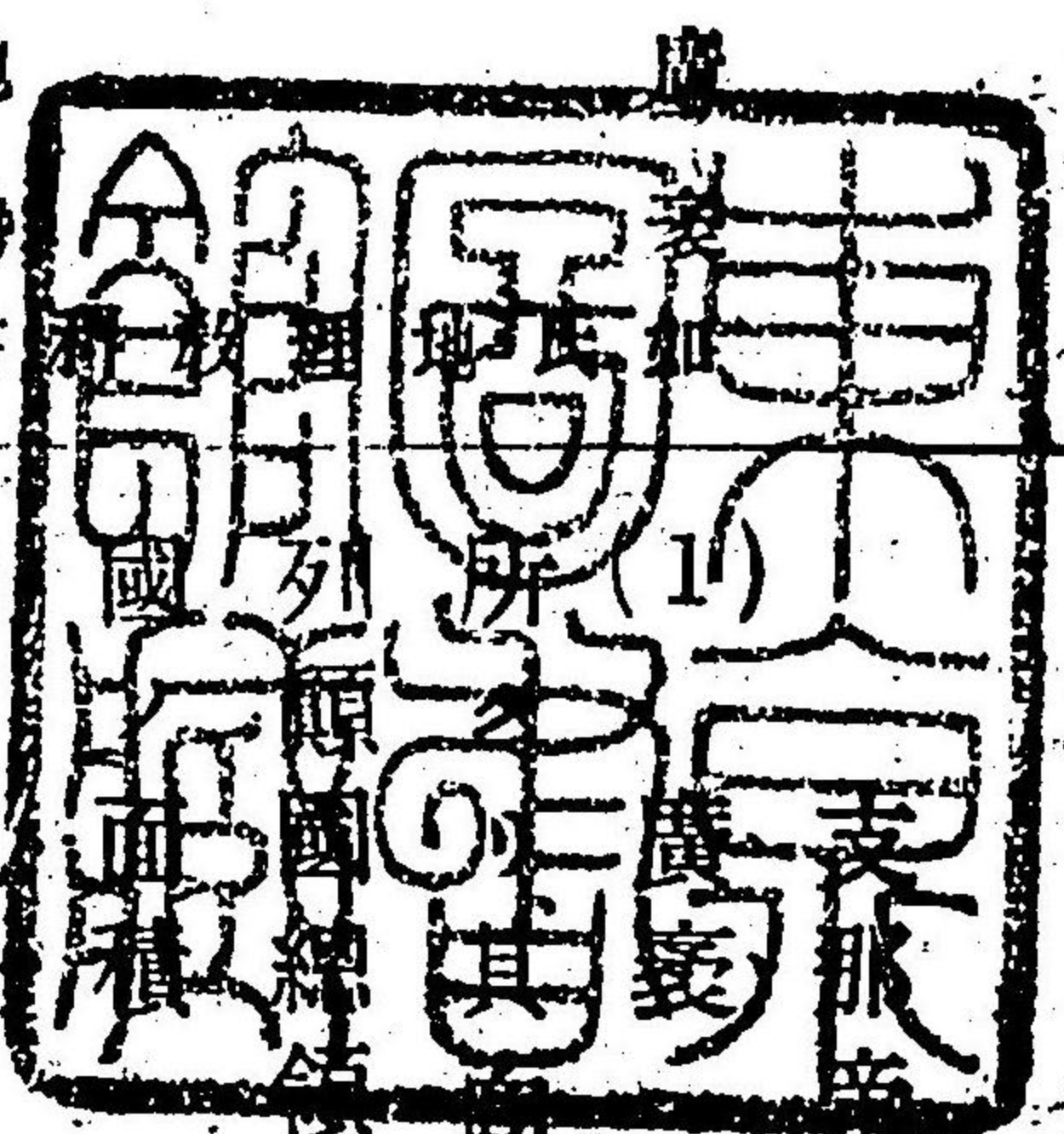
錄 目

<p>東印度諸島記</p> <p>印度國記</p> <p>錫蘭島記</p> <p>西比利亞國記</p> <p>考加佐須記</p> <p>露領中央亞細亞記</p> <p>皮路直坦國及亞加業坦國記</p> <p>土耳其斯坦國記</p> <p>比耳西亞國記</p> <p>亞細亞土耳其國記</p> <p>亞良比亞國記</p>	<p>三八九丁</p> <p>四一二丁</p> <p>四四四丁</p> <p>四四六丁</p> <p>四五五丁</p> <p>四六〇丁</p> <p>四六二丁</p> <p>四六七丁</p> <p>四七〇丁</p> <p>四七四丁</p> <p>四八二丁</p>
---	---



中等 如氏地理教科書第二帙第二卷

理學士 富士谷孝雄 講述



地勢書

(2) 地勢

支那國ノ廣大ナルハ、已ニ世人ノ聞知スル積遙カニ歐洲ノ面積ニ超過シ、其人口大不人口ト伯仲ス、之ヲ我本州ニ比スルニ、支那前者ニ倍スルヲ殆ド三十ナリ、

支那國ハ、亞細亞大陸ノ中央及ビ東部ヲ占メ、北ハ黑龍江及ビサヤン、ブルタイ等ノ連峯ヲ以テ露領シ、ベリプト界シ、西ハ天山及ビバミル高原ニ依テ土耳其斯坦ト相對シ、南ハヒマラヤノ秀嶺印度ト分割シ、

(九〇三)

分劃

夫ヨリ雲南ノ諸山東ニ走リ、太平洋岸ニ達シテ、南方ノ境ヲ作ス、

(3) 分劃 帝國ノ廣袤大ナレバ、其併有スル國數亦少ナカラズ、而シテ此等ノ邦國ハ其地勢及ビ民情ニ於テ大ニ異ナル所アリ、帝國ノ東部即チ幾多ノ大河幽谷ヨリ來リ、海ニ注グ所ハ支那本部及ビ滿州ノ廣原ナリ、土地豐饒ニシテ、民亦最モ多ク、滿州ノ如キハ、農家ノ源淵ト稱スベシ、帝國ノ西半即チ高原沙漠ヲ以テ成リ、又深峯邃溪ノ伏起スル所ハ蒙古、東土耳其斯坦、西藏此ニ位ス、土地ニ人煙稀ニシテ、其族皆水草ヲ逐テ移ルノ牧民ナリ、支那國ノ分劃其面積人口左ノ如シ、

甘肅 廣西 浙江 山西 直隸 (1) 本部
 湖北 四川 雲南 廣東 安徽 河南 山東
 陝西 湖南 湖北 廣東 安徽 河南 山東
 四川 湖南 湖北 廣東 安徽 河南 山東
 (一一三) 書科教理地氏如

(一) 支那本部	人口積	三八三〇七、九〇九	方〇〇
(二) 滿州	人口積	一三六〇三、〇〇〇	方〇〇
(三) 蒙古	人口積	一、二八〇、〇〇〇	方〇〇
(四) 西藏	人口積	六、五〇〇、〇〇〇	方〇〇
(五) 東土耳其斯坦	人口積	四、三〇〇、〇〇〇	方〇〇
(六) 天山北路	人口積	四、七〇〇、〇〇〇	方〇〇
合計	人口積	四、〇一四、一八〇、〇〇〇	方〇〇

支那本部

(4) 本部ハ帝國ノ東南部ヲ占ム、別レテ十八省トナル、(1)
 北ハ萬里長城ニ寄テ、蒙古ニ界シ、東南太平洋ニ面シ、西方西藏ニ至ル、東西ノ長サ千哩餘、抑萬里長城ハ、秦始皇

高低

ノ造ル所ニシテ、長サ一千五百哩谷ヲ涉リ、山ヲ越ヘ、嶺ニ攀シ、溪ニ沿ヒ、崎嶇トシ大蛇ノ地ニ蟠ルガ如シ、厚サ十乃至三十呎、所々ニ關門ヲ設ケ、以テ往來ニ便ズ、蓋シ世間復斯ノ如キ長塞ナシ、但今日ニ至リテハ、破損甚シ、而シテ北京ノ近傍、人口益加フルニ從フテ、民ノ塞外ニ出テ居テ占ル者、日々ニ多シ、西西藏ノ方、丘嶺境ヲ爲シ、其餘波東流シテ小嶺ヲ作シ、支那本部ノ諸水ヲ抱容ス、此地諸川ノ漂堆土ヲ以テ成リ、豐饒ニシテ民亦最モ多シ、

(5) 高低 山丘ノ名稱地方ニ從フテ等シカラズ、但世間ニ普ク知ルモノ兩脈アリ、一ハ即チ北嶺ニシテ、西藏

ノ高原ヨリ出テ東ニ走リ、黄河及ヒ楊子江ノ間ニ横タル、而シテ南嶺ハ楊子江ト廣東江トノ間ニ走リ、支那南部ノ諸山ヲ作ス、支那沿海ノ地ニシテ、廣袤大ニ且ツ人口最モ稠密ナルハ北京、南京ノ間ニアルモノニシテ、中原即チ是ナリ、此地耕作ノ業大ニ進歩ノ狀ヲ呈スルノミナラズ、豐饒ノ溪谷内地ニ向テ延長シ、其兩側或ハ田畑ト爲シ、或ハ森林ヲ現ズ、然リ而シテ溪谷ヲ追テ益、西藏地方ニ向テ進メバ、人口稍稀薄ト成リ、樹木失シテ竹笹之ニ代リ、攀登シテ高原ニ入レバ、松柏他樹ヲ凌テ勢ヲ逞ス、蓋シ西藏ノ高原ニ接近スルヤ、地形益峻峻ニシテ、峻坂崎嶇シ、川河床ヲ洗フテ洞壙シ、窪隙生ズ、而シ

テ山頂ノ如キハ高ク天外ニ聳ヘテ萬世ノ積雪ヲ冠ス、
 (6) 島嶼 支那本部ニ屬スル主要ナル島二箇アリ、一
 ハ台灣ト稱シ、本國ノ東方ニ位ス、南北ノ長サ二百四十
 哩、中央ノ山峯一萬八百呎ニ達ス、島中蕃民少ナカラズ、
 然レドモ氣候宜キヲ得テ、草木大ニ繁生ス、第二島ハ本
 部廣西ノ南ニアリ、瓊州ト名ヅク、長サ百八十哩、幅百哩、
 清國大概之ヲ占領セリ、然レドモ深山邃溪ノ間、未ダ蕃
 族其跡ヲ絶ズ、

(7) 海洋、川河、運河、太平洋ニ瀕セル支那近海ハ、各自
 皆名稱アリ、即チ朝鮮半島及ビ支那間ニアルヲ黃海ト
 云フ、水淺フシテ、水赭色是黃河ノ泥ヲ此ニ來スニ由ル

ナリ、黃海ノ北方朝鮮ノ海岸ニ沿フテ、朝鮮灣アリ、其又
 北方ヲ渤海及ビ遼東灣トス、共ニ山東及ビ遼東ノ抱容ス
 ル所タリ、琉球諸島及ビ支那ノ間ヲ東海ト唱ス、台灣島
 及ビ大陸ノ間之ヲ福建海峽ト云フ、幅百哩、之ヲ出テ南
 ニ到レバ、即チ南洋(支那海)ニシテ、フガリツピンボルネヲ
 ノ群島其南方ヲ圍繞ス、黃海ノ沿岸ハ土地低ク、平坦ナ
 ルモ、瓊州近傍ハ斷岸絶壁ニシテ、島嶼岩礁多シ、
 (8) 支那本部ノ二大川即チ黃河及ビ揚子江ノ特性ハ
 已ニ之ヲ亞細亞總論ニ於テ盡シタリ、前陳兩川ノ外本
 部ノ大河ト唱フベキモノハ、北江、閩江、西江ニシテ、北江
 ハ支那北部ノ諸水ヲ容レ、北京ト天津間ニ舟楫ノ便ヲ

與フ、閩江ハ福建ニアリ之ホヘア茶ノ福州ニ來ルノ路
タリ、西江ハ南支那ノ最大川ナリ、其一支流廣東港ニ注
グ、

支那ノ三大湖ハ楊子江ノ南涯ニアリ、洞庭湖ハ長サ七
十哩、鄱陽湖ハ其大サ殆ド洞庭湖ト似タリ、而シテ大湖
ハ楊子江口ノ南西涯ニ位ス、

(9) 支那國中土工ノ最モ較著ナルハ運河ニシテ、其長
サ七百哩、北ハ天津ニ起リ中原ヲ橫斷シ、黄河ヲ跨ヘ
楊子江ノ下流ニ至ル、之帝國中ノ最大運河ニシテ、其他
ノ小運河ニ至リテハ、殆ド幾何ナルヲ知ズ、但清朝ニ至
リテ、運河ヲ修復スルヲ勤メザリシヲ以テ、破損ヲ來セ

氣候

シ所少ナカラズ、爲メニ黄河モ年々流ヲ變ジ、其北涯ヲ
シテ年ニ十ヶ月間雨ナキニ至ラシメタリ、

(10) 氣候、支那本部ノ如キ、南北ノ幅員廿度餘ニ及ブ
ノ大國ニハ、氣候モ自ラ大同アリ、加之ナラズ、東部ノ海
邊ハ平坦ナルモ、西邊高丘ニ面ス、然レバ則チ、土地高低
ノ差モ亦著シク、氣候ノ之ニ從フテ異同ヲ生ズルハ、自
然ノ理タリ、之ヲ要スルニ、支那本部ノ氣候ハ、歐洲同緯
度ノ地ヨリモ寒冷ナリトス、

本部ノ氣候ヲ大別スレバ、三帶アリ、曰ク北帶、中帶及ヒ
南帶、是ナリ、而シテ帶ニ從フテ、物産モ亦大ニ異ナリト
ス、北帶ハ北緯卅五度即チ黄河以北ノ地ヲ含有シ、氣候

ノ差極メテ甚シク、夏ハ炎熱ニ苦ミ、冬ハ寒氣烈シク、川
河水塞シ、地ノ凍ルコト深サ尺餘ニ及ブ、五穀菜蔬此ニ産
ス、

北京周年平均溫度五十五度、夏日八十一度、冬日二十七度、
中帶ハ北緯廿七度ヨリ廿八度ニ達シ、氣候ノ差、前者ノ
如ク甚シカラズ、周年平均溫度六十二度、夏日最高溫百
十度、一年潤節兩期、乾節兩期アリ、即チ此地支那ノ最モ
豐饒ナル部分タリ、其最著ノ物産ハ茶、及ビ絹糸ニシテ、
低地ノ水田ニハ多ク米ヲ生ズ、麥、綿、桑、砂糖、竹等モ此地
ニ産ス、東部ハ糸茶ヲ以テ殊ニ有名、中部ハ五穀ニ富ミ、
西部ハ木材ヲ出ス、

礦產

南帶ハ其氣候殆ド熱帶ニ類ス、潤節四月ヨリ十月ニ及
ビ、此間終始西南モンソーン吹來シ、又六月ヨリ九月ノ
間大風屢沿海ニ起ル、此地橙、マンゴローブ、樹、香蕉、地荳、
甘薯、大薯等ヲ産ス、内地ノ沃土ニハ、大ク阿片罌粟ノ耕
作ス、

(11) 礦產 支那ノ礦產ハ其源極メテ大ナリ、雲南州ハ
支那ノ西南ニアリ、世界第一ノ金坑ヲ有ス、此地亦有名
ノ白銅ヲ産ス、銀、鉛、鐵、錫、及ビ辰砂ハ各州ヨリ出ヅ、楊子
河並ニ黃河下流以北ノ地、石炭層ニ富ム、雲南ノ南亦多
ク寶石ヲ出ス、其種類ヲ舉レバ、紅寶石、紫水晶、藍寶石、黃
寶石、螢石等ニシテ、其他孔雀石、及ビ蠟石モ亦此地ニ産

ス、而シテ蠟石ハ支那人ノ巧ニ工ヲ施シテ、以テ種々ノ器物ヲ作ルモノナリ、

世人ノ好嗜スル玉ハ、黃河溪ヨリ出ヅ、天藍石トリスチユハ浙江ニ産シ、本省及ビ陝西ハ大ク陶土ヲ出ス、西北ノ地溫泉多ク、四川ノ西郡天然瓦斯アリ、

(12) 前已ニ述ブルガ如ク、支那ノ地勢變化多ク、土質亦等シカラザルヲ以テ、植物ノ産頗ル多ク、其種類夥多ナリ、而シテ礦物ノ富モ亦殆ド無盡ナルノミナラズ、其種許多ナレバ、支那本部ノ人民ハ其國中ニ於テ、人生ノ緊要品ヲ有スルモノニシテ、自ラ獨立シ、敢テ外國ト交通セザルモ、亦以テ生計ヲ營ムニ苦マザルベシ、是蓋シ支

人種

那國人ノ外國人ヲ容ルヲ喜バズ、今日ニアリテモ未ダ其内地ヲ開カザルノ所以カ

(13) 人種 支那人ハ、亞細亞洲總論ニ述ベタルガ如ク、蒙古人種ニ屬シ、本部ノ人民其相互ニ類似セルヲ、更ニ本邦ノ如キ廣濶ノ土地ヲ有スル他國ニ見ザル所タリ、但言語ノ訛ハ省ニ從フテ大ニ異ナリ、蓋シ支那人ハ色黃ニシテ髮粗ク、頬骨秀デ、眼斜メニ釣ル、然リ而シテ支那本部中未ダ土蕃ノ存在スルモノアリ、其性質支那人ニ類スルヨリ、寧ロ印度東北山中ノ土族ニ擬フ、之則チ苗子及ビ獠族ニシテ、南嶺ノ幽谷ニ居ル、糞々ト稱シ、白哲人種ニ似タルモノハ、西四川ニ棲ム、廣東近傍ノハ

育宗教、々

カ及ビ「ブ」ナ並ニ福建ノ犵佬モ別種ニシテ、其言語ハ支那人ト雖モ、解シ得ザル所タリ、瓊州中央ノ山間際ト稱スル野蠻アリ、或ハ苗子ト同族ニ屬スト云フ、而レテ本州海邊ノ地ハ支那人皆之ニ居ル、

(14) 宗教及ビ教育 支那宗教ノ事ニ就テハ、已ニ述ベタル所アリ、而シテ孔子ノ廟ハ都市トシテ之アラザルハナク、春秋二回肉菜並ニ酒ヲ獻ジテ、孔子ヲ奠ル、老子ノ徒ノ如キニ至リテハ、佛法ノ徒ニ類スル所少ナカラズ、黃河ノ上流、或ハ他深山邃溪ニ入テ、世ヲ避ルト唱スル者多シ、西藏ノ「ラマ」ハ佛教ノ法王ト稱シテ可ナラン、然レドモ在支那本部ノ佛僧ハ、學者並ニ政事家ノ擯斥

スル所ナリ、但北京ニアリテハ、西藏及ビ蒙古ノ僧侶政府ノ爲メニ養ハル者少ナカラズ、前陳宗教ノ外復回々教ノ信徒アリ、唐朝ノ時、韃靼人ノ輸入セシモノナリ、抑、唐朝ノ時其勢ヲ助ケンガ爲メ、韃靼人ヲ募集セシニ、其中回々教奉信者タル北東西戎夥多アリタリ、之支那ニ回々教ノ入りシ始メナリ、而シテ回々教徒ハ屢、其勢ヲ逞フシ、王位ヲ傾ケンヲ計レリ、此徒蓋シ尋常一般ノ支那人ト交際セズ、支那人ノ已ニ基督舊教ニ化セシモノ、百萬ニ過グ、然レドモ「プロテスタント」派ハ極メテ尠シ、
支那ニ風水ト稱スルモノアリ、大ニ文華ノ進歩ヲ妨グ、

何トナレバ凡ソ事ヲ爲スニ當リテハ、人必ズ此者ニ依テ、吉凶ヲ占ハザルナケレバナリ、然リト雖モ、凡ソ官途ニ就テ、人爵ノ榮ニ浴シ、或ハ富ヲ致サント欲スル者ハ、教育ノ一點ニ由ラザルヲ得ザルヲ以テ、名譽心アルモノハ必ズ教育ヲ受ク、而シテ三年毎ニ北京政府ヨリ官吏ヲ出シ、登用試験ヲ舉行シ、其及第生ヲ舉ゲテ、文武ノ官ニ任ズト雖モ、先王ノ道ヲ尊崇スルノ餘、溫古知新ノ精神ヲ欠グヲ以テ、近世理學上ノ發明ノ如キハ、之ヲ度外視スル者多ク、爲メニ學術上敢テ著シキ進歩ヲ見ルコナシ、

鎖國ノ主義漸ク失セ、國民外行ノ禁モ亦解ルニ至リテ、

支那人労働者追々外國ニ出テ、今日ニアリテハ、巫來由半島並ニ印度諸島ニ跋扈シ、印度或ハ濠洲ニ蔓延ス、而シテ米國桑港ノ如キハ、支那人ノ市街ヲ建ルニ至レリ、支那人ノ跋扈スノ如ク、極度ニ達セシヲ以テ、米國ハ已ニ該國人拒絶條例ヲ發シ、濠洲モ亦將ニ右ト同様ノ條例ヲ實行セントス、

(15) 農工、支那ハ古來農業ヲ獎勵セシ國ニシテ、其排水疏水ノ方法、土壤ノ培養、丘阜ノ耘耕等ノ如キハ、世ノ普ク知ル所タリ、蓋シ本國人ノ農業ヲ尊ブハ、他ニ比類ヲ見ズ、以是皇帝親ヲ春秋ノ二回ニ郭外ニ出デ、農業獎勵ノ爲メニ祭典ヲ行ヒ、皇后ハ官女ト共ニ、親ラ桑葉ヲ

摘ミ、養蠶ノ緊要ナルヲ公衆ニ示スヲ恒例トス、
 歐洲ノ工業未ダ幼稚ナルニ當リテ、支那更紗已ニ該洲
 ニ輸入シ來レリ、陶磁器モ早ク支那人ノ造リシ所ニシ
 テ、葡萄牙人ハ之ヲ見テ、貝壳ヲ以テ製セント思シニ由リ、
 磁器ヲ「ポルセラナ」ト名ケタリ、而シテ磁器製造ノ秘密
 ハ十八世紀ノ始ニ當リテ、歐洲人漸ク之ヲ發明セリ、
 支那陶土ノ著名ナルハ、江西ノ高嶺ニ産ス、本省ニハ耶
 蘇紀元一千四年ニ創設セシ陶器製造所アリ、竹紙ヲ製
 スルハ支那人ノ耶蘇紀元前二百年先キヨリ知リシ所
 ニシテ、合金製造モ亦古來此國ニ傳ハリ、青銅ノ如キハ、
 耶蘇紀元前千七百六十年ヨリ、已ニ世ニ知ラレタリ、北

貿易

京ノ大鐘ハ明朝ノ時、之ヲ鑄造セシモノナレドモ、未ダ
 其音ヲ損セズ、而シテ鐘鐘金ノ製法ハ支那人ノ外、未ダ
 之ヲ知ル者ナシ、支那人亦縫繡ノ業、彫刻、漆器等ヲ克ク
 ス、故ニ此等ノ藝術ニ至リテハ、大ニ看ルベキモノアリ、
 (16) 貿易、西曆千八百四十二年迄ハ、歐洲人ノ支那人
 ト通商セシモノ、極メテ稀ニシテ、開港モ唯廣東ノミナリ
 シガ、英清ノ戰爭此時終リ、之ガ爲メ、廈門、福州、寧波及
 上海ヲ開クニ至リ、廣東河口ノ香港島ヲ以テ、大貌列顛
 國ニ讓與セリ、右五港ヲ開キシヨリ、外國貿易モ漸盛大
 ニ赴キタリ、而シテ清國人ノ常トシテ、更ニ條約ニ注意
 セザリシモ、千八百五十七年マデハ、別ニ難義ノ起リシ

「ナシ、然ルニ同年ニ至リ、清國ト英佛國トノ間ニ紛議生シ、北河口ノ諸港ハ、兩國軍艦ノ襲撃スル所タリシ、於是乎、天津條約ヲ締結シ、即チ瓊州、香港、厦門間ノ汕頭、楊子河岸ノ鎮江、九江及ビ漢江、山東北岸ノ登州及ビ芝罘、並ニ天津、牛莊ヲ外國貿易ノ爲メニ開キタリ、台灣港及ビ大沽モ亦開港場タリシト雖モ、地方ノ人心常ニ靜謐ナラザルニ由リ、商業ハ次第ニ淡水及ビ鷓籠ニ移レリ、千八百七十六年ノ條約ニ由リ、清國政府ハ復タ廣東ノ北海、寧波、福州間ノ温州及ビ蕪湖等ヲ開ケリ、右ト同時ニ四川省重慶ニ英國官吏ノ居住スルヲ許セシト雖モ、楊子江ニ於テ、漁船ノ便ヲ開クノ後ニ非ザレバ、支那政

府ハ洋商ノ此ニ至リ、貿易スルヲ許サズ
支那ノ海上貿易ハ、主ニ英國及ビ其殖民地地方トノ間ニ行ハレ、亞米利加合衆國、獨乙、佛蘭西、丁抹、西班牙、和蘭國等ノ間、亦貿易ナキニ非ズト雖モ、決シテ盛隆ノモノニ非ズ、(我國及ビ支那間貿易ノ詳況ハ外國貿易表大行藏書)等ノ書ニ就テ見ルベシ)輸出品ノ緊要ナルハ、絹糸及ビ茶ニシテ、輸入品ハ木綿、阿片、海産、木材及ビ其他ノ雜品ナリ
支那、露西亞ノ間、廣大ナル陸上貿易アリ、多クキアクタ街道ニ依リシベリアニ出ヅ、其輸出スル物ハ茶及ビ絹糸ナリ、輓近印度、緬甸地方ヨリ陸上ニ由テ、支那ト貿易

政體

ヲ爲シテ謀リシト雖モ其策未ダ効テ奏セズ、國內ノ通商モ亦盛ナリ、多ク江河運河ヲ借テ物品ヲ回漕ス、嚮ニ西洋人アリ、上海、吳淞間ニ鐵道ヲ布設セシト雖モ、清國政府ハ之ヲ買收シテ撤去セシガ、其後復鐵路布設ノ議起リ、竟ニ今年(明治廿一年)ニ至リテ、天津ヨリ唐山マデノ鐵道ヲ開キタリ、其長サ總テ八十一哩、但唐山ハ石炭坑ノ在ル所タリ、又曰ク此鐵道ハ追々伸張シテ、北京、山海關、保定等ニ達セシムルノ計畫ナリト云フ、

(17) 政體 支那ノ政體ハ累世君主擅制タリ、是ヲ以テ當代ノ君主ハ、政事上ニ宗教上ニ無限ノ權アリ、而シ

テ君主ノ宮外ニ出ツルヤ、人民ハ之ヲ見ルヲ得ザルヲ以テ、皆戸内ニ閉居ス、君主ヲ天子ト稱ス、又宗教上ノ最高位者タリ、宗教ニ關スル大禮ハ、天子ノ外之ヲ執行スルヲ得ズ、天子亦高官ヲ親任ス、而シテ政府ノ行政部ハ、主府北京ニアリ、親任官タル大臣(三名ハ滿州人)四名及ビ翰林學士二名ヲ以テ成ル、蓋シ翰林學士ノ職務ハ帝國ノ律例法教ニ背ク所ナキヤヲ視察スルニアリ、次ニ位スル者ハ、支那本部十八省及ビ滿州三省ノ總督及ビ巡撫ニシテ、蒙古及ビ西藏ノ將軍之ガ次ニ居ル、政府別レテ六部ト成ル、即チ吏部、戶部、禮部、兵部、工部及ビ刑部是ナリ、又別ニ諫官アリ、御史ト稱

ス、天子ニ爭議ヲ奉ルノ權ヲ有シ、且ツ六部ノ集會ニ參與ス、

(18) 十八省皆總督若クハ巡撫アリ、兵ヲ有ス、然レドモ省中ノ全軍ハ其指揮ヲ受ケズ、昔滿州人ノ明朝ヲ亡セシヤ、兵ヲ白旗、紅旗、藍旗及ビ黃旗ノ四軍ニ別ケシガ、後之ヲ合併シ、之ニ蒙古人四軍支那人四軍ヲ加ヘタリ、而シテ將軍ノ職ハ滿州支那及ビ蒙古ノ三國人ニ於テ、之ヲ勤ムト雖モ、滿州人特ニ多キヲ占ム、又都市、津港、境界ノ如キハ皆滿州兵ノ守ル所タリ、支那ノ常備兵ハ主ニ警察官ノ職ヲ爲ス、千八百七十七年英國ニ於テ、清國政府ノ爲メ、鐵艦四隻ヲ作レリ、是蓋シ清國ガ泰西ノ兵式

都市

ニ效フテ海軍ヲ設ケシ權與タリ、

(19) 都市 北京ハ支那ノ首府ナリ、中原ノ北邊ニアリ、外圍長方形ヲ爲シ、繞スニ城壁ヲ以テス、人口凡五十萬ニ近シト云フ、市街廣濶ニシテ、華美ノ建築アリ、宮殿ノ如キハ最モ壯觀ヲ極ム、而シテ道路ノ熱鬧、四民往來ノ繁劇ナルハ、洵ニ東洋ノ一大都府ト云フベシ、南京ハ支那ノ舊都ナリ、揚子河涯ニ位ス、人口四十五萬餘ト云フ、北京ノ如ク繞スニ城壁ヲ以テス、此都ニ有名ノ陶器樓アリシガ、千八百五十三年長髮賊ノ破壞スル所ト成レリ、市街廣大ニシテ、大廈豪屋少ナカラズ、且此ニ風流ノ士多キヲ以テ、閑雅ノ住居所々ニアリ、

北京南京ノ市街ハ廣濶ナレドモ、他都市ニ至リテハ、道路概チ狹少ニシテ、家屋モ亦粗惡矮弊ナリ、見ルベキモノ尠シ、唯其間官吏ノ家屋或ハ堂宇ノ巍然トシテ、空中ニ聳ユルヲ觀ルノミ、
人口十萬以上ヲ有スルノ都市數多アリト雖モ、姑ク此ニ之ヲ畧ス、而シテ歐洲人ノ支那ニ寄留スル極メテ少ク、其數五千ニ過ギズ、多クハ上海ニ居テ占ム、
(20) 甘肅ハ地理上ヨリ云ヘバ、支那本部ニ屬スト雖モ、其管轄域ノ北西部ハ遠ク長城外ニ及ビ、中亞細亞高原ニ達シ、東土耳其斯坦天山北路ノ東界、即チ天山ノ東端ニ接ス、而シテ南ニ南嶺アリ、北ニ天山ノ高峯ヲ構ヒ、其

地形ハ蒙古戈壁等ノ高原ニ類シ、實ニ其一部ヲ作ス、蓋シ甘肅ニハ中亞細亞ノ一貿易路アリ、内甘肅ノ首府蘭州ヨリ嘉裕關ヲ出ヅ、沙漠ヲ旅行スルヲ十日ニシテ、天山南麓ノ哈密翠境ニ至ル、其間野馬、驢等多シ、天山ヲ越テ道アリ、峠ノ高サ八千九百八十尺、車ヲ行ルニ善ク、之ヲ越レバ、天山北麓ノバークルニ到ル、南嶺山下南甘肅ハ土地豐饒ニシテ、山腹多ク、躑躅ヲ生ズ、本省亦大黃ヲ産ス、此草最モ低地ニ繁茂ス、

滿州

滿州ハ支那帝國ノ一部ニシテ、即チ清朝始皇ノ起リシ所タリ、其位置支那本部ノ東北ニアリ、西ハキンガン山

地勢

脈ヲ以テ界シ、南長白山ニ依リテ朝鮮ト境ス、其間凡五百哩、而シテ北方ニアリテハ黑龍江ニ由リテ露領シベリ、アト別レ、西南ニアリテハ遼東灣及ビ朝鮮灣之ヲ限ル

(22) 川河、滿州中ニ著名ナル川ハス、ンガリナリ長サ凡千哩、源ヲキンガン山ニ發シ、東北流シテ黑龍江ト合ス、烏蘇黑江ハ南ヨリ來リ黑龍江ニ入ルモノナリ、源ヲヒンカ湖ニ發ス、湖ハ海邊ノ山中ニアリ、高サ二千呎、長サ五十哩、滿州南方ノ川ヲ遼河ト稱ス、キンガン嶺麓ヨリ出デ、南走シテ遼東灣ニ入ル

(23) 地勢、北方ノ地方山林ニ富ミ、西部ニハ牧地多ク、

人種

野獸少ナカラズ、之即チキンガン嶺下ノ地ニ連ル所ニシテ、所々ニ鹹湖アリ、此地方ヲ喀喇沁沙漠ト稱ス、スンガリ河溪ハ豐饒ノ地ニシテ、其地味支那本部ノ北部運河多キ米田ニ類シ、胡麻、麻、綿等ヲ産ス、就中此地ノ煙草ハ支那中ニ魁タルモノナリ、氣候亦宜シキヲ得、然レドモ北方ニハ寒氣極メテ甚シク、八月ニ至レバ艸霜枯シ、十月ヨリ四月ニ至ルノ間、地堅凍ス、野ニ禽獸多ク、川ハ魚鱉ニ富ム

(24) 人種、滿州人ハ膚色稍淺ク、筋骨逞フシテ髯少シ、其他ニ至リテハ、克ク支那人ト類ス、蒙古人種ノ「トゥングス」族ニ屬シ、族中ノ最モ進歩開明シタルモノナリ、已

分區都市

二十世紀ノ古ヨリ、勇悍ヲ以テ其名ヲ博シ、又智育體育ノ兩點ニ於テモ世ノ知ル所ト成レリ、十五世紀中滿州人明朝ヲ亡スニ當リテ、本州ノ人民多ク中國ニ入り、支那人之ニ代リテ滿州ニ入り、今日ニ至リテハ、支那人滿州ニ多數ヲ占メ、又滿州ノ言語亦將ニ絶エントス、而シテ商業ノ如キハ、大抵支那人ノ手ニ在リ、國境ニ徘徊セル韃靼人ハ多ク牧民ニシテ天幕ニ住ス、中亦獵ヲ勤メテ意ヲザル者アリ、弓矢ノ術ニ精ク、克ク騎馬ニ狎ル、州人多ク回々教ヲ奉ジ、此徒山間ニ幽居シテ、自ラ俗人ト絶テ、害ヲ清國政府ニ爲スヲ屢ナリ

(25) 分區及ビ都市 滿州ハ別レテ三省ト成ル、其南部

ニ在ルヲ遼東ト云フ、人口稠密ニシテ、民農ヲ勤ム、西北省ヲチチハルト稱ス、スンガリ支流ノシニ河溪ニアリ、而シテ吉林ハノシニ川及ビ白長山間ニアル、東三省ノ稱ナリ、清國派遣將軍ハ遼東省ノ奉天府ニアリ、チチハル府ハノシニ河邊ニアリ、西北省ノ首府ニシテ、清國罪人ノ配所タリ、兵營ヲ置テ之ヲ守ル、吉林ハスンガリノ上流ニアリ、土壁ヲ以テ之ヲ繞ス、黑龍江ノ商船ハ多ク此ニテ造作ス

牛莊ハ滿州ノ商市ナリ、奉天ノ西南廿五哩、遼河口上三十哩ノ所ニアリ、遼江口ノ港チインホフト云フ、五穀、麻、獸皮、藍等ヲ出ス、然レドモ十一月ヨリ三月ニ至ルノ間

地勢

海水凍ス

蒙古

(26) 蒙古ノ南境ニハアラシン山アリ、嶺上積雪絶ヘズ、其麓ハ長城ノ蟠臥スル所ニシテ、其南方ハ支那本部ナリ、東ハキンガン山ヲ以テ滿州ト界シ、西北ハアルタイ山ニ、西ハ天山ニ達ス、東西ノ長サ凡千哩、其面積殆ド我國ニ十倍ス

蒙古人ハ大ニ支那本部ノ民ニ違ヒ、國大ナルモ別ニ都市ヲ建テズ、常ニ天幕内ニ住ミ、水草ヲ逐テ所々ニ移轉シ、牧畜ヲ以テ業トス

(27) 地勢 蒙古ノ周圍山林ニ富ム、高嶺アリト雖モ中

河 湖

部ハ高原ニシテ、高サ三千呎乃至四千呎トス、其麓ハ多少雜草ヲ生ズ、又中央ハ即チ有名ノ戈壁沙漠ニシテ、曲屈シテ二千哩ニ及ビ、幅五百哩ニ下ラズ、蓋シ戈壁沙漠ハ砂地ニ非ズシテ、确地ナリ、雜草灌木ノ間々生ズルノミ、而シテシベリアニ近クニ從ヒ初メテ森林良叢ヲ看ル

(28) 河、湖 沙漠近傍ノ山溪ヨリ沙漠内ニ入ル川河ハ極メテ少ク、大抵皆小鹹湖ニ注グ、アルタイノ近傍山嶺多キノ地、タンヌナラ、カンガイ等ノ諸山西北ヨリ來リ、幽谷ヲ作ル、湖必ズ其間ニアリ、ウブサノル、トルゲン、カ

ラ其他蒙古西北ノ諸湖ノ如キ是ナリ、エニセイ河ノ源ハ

蒙古ノ北山中ニ在リ、セレンガ川ハコスゴル湖ヨリ出
 ツ、蒙古ノ東北ニダライノルト稱スル湖アリ、是ヲ黑龍
 江ノ源トス

(29) 氣候、寒暖ノ差最モ甚シク、降雨殆ドナシ、已ニ十
 月ニ至レバ、積雪地ヲ覆ヒ、東北風來リテ、肌ヲ裂クガ如
 シ、嚴寒ノ節ニ及ベバ、寒暖計氷點以上ニ昇ルヲ稀ナリ、
 而シテ夏期ハ之ニ反シテ、熱氣極メテ酷シ、四月ノ頃ニ
 ハ颶風屢、土沙ヲ卷揚ス、

(30) 人種、蒙古ハ原ヨリ耕耨ヲ勤メザルノ國ナリ、之
 ニ住居スルノ人民、別レテ三類ト成ル、其第一ヲ「カルカ
 ス族」ト稱ス、高原ノ北及ビシベリア地方ニ向ヒテ流走

セル諸水ノ上流ニアリ、頰骨秀テ、顔坦圓、眼斜上、頭髮黧
 ク、骨格逞フシテ、即チ純然タル蒙古人種ヲ表ス、「カルカ
 ス族」ハ牧畜ヲ業トシ、更ニ一所ニ定住セズ、其富トスル
 所ハ、則チ家畜ニシテ、馬匹ヲ最モ愛シ、常ニ天幕ニ住ム、
 第二ハ戈壁東南ヲ跋渉ス、スニテ是ナリ、第三ハ「ナ、カル
 ス」テ「メツ」オ「ルドス」オ「ルス」ト「ルグス」等ノ族ニシテ、長城
 ノ北高原ノ南ニ住ス、此族ハ農事ヲ勤メ、長城ノ南ニ出
 ツ、於是屢支那人ト結婚シ、又其風俗ヲ習フテ、大ニ蒙古
 人種ノ固有性質ヲ失ヒシト雖モ、該族固ヨリ懶惰ニシ
 テ、唯、掠奪ヲ是勤ム、蒙古南方ノ旅行ヲシテ、危險ナラシ
 ムルハ、蓋シ此族アルガ故ナリ、

貿易

蒙古人ハ別ニ清朝ニ貢進セズ然レドモ徵兵ニ應ズル
 ノ義務アリ國中ハ之ヲ軍區ニ別テ清朝ノ將軍之ヲ監
 督ス、カルクス族モ亦世襲諸侯ニ從フテ割居ス、ウルガ
 ニ支那殖民地アリ、セレンガ河邊ニ支那ノ兵營アリ、セ
 レンガ河ノ西五百哩、ウリアスタイニ支那人ノ小村落
 アリ、右ノ諸所ハ皆蒙古高官ノ住居ヲ占ムル所ニシテ、
 マブドニモ亦支那ノ兵營アリ、
 蒙古ノ宗教ハ、主ニ佛教ニシテ、ラマ派ノ僧侶大ニ勢力
 アリ、ウルガハ、ラマ派高僧ノ居ヲ占ムル所ニシテ、即チ
 蒙古ニ於ケル、ラマ教ノ中心タリ、
 (81) 貿易 歐羅人ノ最モ多ク蒙古人ニ接スル場所ハ

張家口街ナリ、此街ハ北京近傍ノ城門ヲ出デ、マイマナ
 シ、キアクタ等ノ村落ヲ過ギ、セレンガ河邊ニ寄テシベ
 リ、ア國境ニ至ル、蒙古人ノ本街ニ在ルモノハ主ニ駱駝
 隊ヲ監督シテ、茶、生糸、陶器、大黃等ヲ輸送ス、旅程九百哩
 ニ餘ルヲアリ、マイマナシハ支那市ナリ、其外觀大ニ露
 市ノキアクタト異ナリ、十二月ノ頃、支那人ハ茶及ビ其
 他南方ノ物産ヲ此ニ輸送シ來リ、露西亞人ノ獸皮、羅紗、
 金巾等ト交換ス、
 甘肅省ノ首府蘭州ヨリ、嘉裕關ヲ出デ、哈密、バークル等
 ナ經テ蒙古ノ西隅ヲ過ギ、ザイサン湖ノ近傍ニ至リテ、
 始メテ露領ニ出ヅルノ通路アリ、此路未ダ貿易上繁昌

ヲ來タサズト雖モ其距離之ヲ他路ニ比シテ大ニ短縮
ナレバ他日必ズ盛隆ノ通街タルニ至ルベシ、

天山北路

(32) 蒙古ノ西アルタイ山ノ南天山ノ北ニ一國アリ支
那人之ヲ天山北路ト稱ス而シテ其西ハ露領ニ界ス之
往昔強勇ノ王國タリシガ千七百五十九年以後清國ノ
屬國ト成リ即チ蒙古軍中ニ編セラレタリ清國政府ハ
此國ヲ以テ其囚徒ノ配所トス、

(33) 此地山嶺多ク湖所々ニ散在ス西シベリアノ諸川
並ニ中央亞細亞ノ河ニシテ源ヲ此地ニ發スルモノ少
ナカラズバルカス湖ヲ涵養セルイリ河モ亦此ニ發源

ス其溪豐饒ニシテ人口稠密グルジ市ノアル所タリ千
八百七十一年露人此地ヲ占有セシガ其後ニ至リ清國
天山北路ノ北部及ビ中部ヲ回復セリ而シテ千八百八
十一年ノ條約ニ由リ其餘部モ亦清國ノ所屬ニ歸セリ
クルジ及ビ其近傍ニハ凡百年前清國ヨリ放逐セシ囚
徒ノ子孫多シ其他トシカニス「カルムクス」キルギツ
ノ如キハ清國ニ歸服セズシテ多ク他ニ移住セリ、
本州中殖民多キ地ハ甘肅省ノ西北ヨリグセンマナス
等ノ地方ヲ經ヘ天山ノ北麓ニ出デイリ河ニ沿テ露領
ニ入ル通商路近傍ニアリ此地行商多ク茶ヲ亞細亞中
央ヨリ輸送シ來リキルギツノ高原ヲ經テウラル山ノ

ヲ來タサズト雖モ其距離之ヲ他路ニ比シテ大ニ短縮
ナレバ他日必ズ盛隆ノ通街タルニ至ルベシ、

天山北路

(32) 蒙古ノ西アルタイ山ノ南天山ノ北ニ一國アリ支
那人之ヲ天山北路ト稱ス而シテ其西ハ露領ニ界ス之
往昔強勇ノ王國タリシガ千七百五十九年以後清國ノ
屬國ト成リ即チ蒙古軍中ニ編セラレタリ清國政府ハ
此國ヲ以テ其囚徒ノ配所トス、

(33) 此地山嶺多ク湖所々ニ散在ス西シベリアノ諸川
並ニ中央亞細亞ノ河ニシテ源ヲ此地ニ發スルモノ少
ナカラズバルカス湖ヲ涵養セルイリ河モ亦此ニ發源

ス其溪豐饒ニシテ人口稠密クルジ市ノアル所タリ千
八百七十一年露人此地ヲ占有セシガ其後ニ至リ清國
天山北路ノ北部及ビ中部ヲ回復セリ而シテ千八百八
十一年ノ條約ニ由リ其餘部モ亦清國ノ所屬ニ歸セリ
クルジ及ビ其近傍ニハ凡百年前清國ヨリ放逐セシ囚
徒ノ子孫多シ其他トシガニス「カルムクス」キルギツ
ノ如キハ清國ニ歸服セズシテ多ク他ニ移住セリ、
本州中殖民多キ地ハ甘肅省ノ西北ヨリグセンマナス
等ノ地方ヲ經ヘ天山ノ北麓ニ出デイリ河ニ沿テ露領
ニ入ル通商路近傍ニアリ此地行商多ク茶ヲ亞細亞中
央ヨリ輸送シ來リキルギツノ高原ヲ經テウラル山ノ

地勢

東麓ニ到ル是、カルムク商ノ主ニ從事セル貿易タリ、
 東土耳其斯坦
 (34) 東土耳其斯坦ハ支那帝國ノ西陲ナリ、原來回教
 奉信者ノ酋長之ヲ支配セシガ、千七百五十八年竟ニ清
 國ノ占領スル所ト成レリ、其後千八百六十四年乃至千
 八百七十七年ノ際、一時支那政府ノ軛ヲ脱セシトキニ
 當リテ、英領印度並ニ西土耳其斯坦露郡ノ大ニ屬目ス
 ル所ト成リキ
 (35) 地勢、東土耳其斯坦ハ天山ノ南ニアリ、故ニ支那
 人之ヲ天山南路ト稱ス、本州ノ南ハ崑崙山之ヲ界シ、西
 ハバミル高原ト接シ、東ハ戈壁沙漠ニ連ナル、周圍皆高

川河

氣候

山ナルヲ以テ、殆ド降雨ナシト雖モ、山麓別ニ沃地アリ、
 是ハ山頂ノ積雪或ハ氷河ノ融消シテ以テ水ヲ流シ、涵
 養スル所タリ、此地海面ヲ抜ク、凡ソ四千呎、田アリ、園
 アリ、綿麻等ヲ産ス、而シテ國ノ中央ハ礫礫ノ地ニシテ、
 タクラ、マカント稱スト雖モ、其實戈壁沙漠ノ一部タリ、
 (36) 川河、東土耳其斯坦川河ノ主ナルモノ三アリ、曰
 クカスガルダリア、ヤルカンドダリア、ユタンダリア、是
 ナリ、此等ノ川河ハ皆源ヲ近傍ノ高山ニ發シ、沙漠ヲ流
 過スル、凡ソ五百哩ニシテ、亞細亞大陸中央ノ大沼即
 チカラブルン及ビロプ、ノルニ注グ、
 (37) 氣候、東土耳其斯坦氣候現象ノ較著ナルハ、四季

都市

記國帝那支門事記

通商路

トモニ大氣極メテ乾燥降雨極メテ少ナク塵風屢起リテ四方ヲ塞ギ夏極メテ熱シ冬極メテ寒ク春秋ノ頃山風高嶺ヨリ吹降シ來ル等是ナリ、

(38) 都市 本國ニ七都アリ、曰ク、ユタン、或ハイリヤンギヒサル、カスガル、ウスト、ルフン、アクス、クチトルフンはナリ、就中カスガルハ首府ニシテ城堡アリ、ヤルカンドハ

貿易場ニシテ、首府ノ東南百哩ノ所ニ位ス、ヤルカンドハ

ハ回スニ城壁ヲ以テス、市中回々教ノ寺院百六十二達

シ、隊商ハ亞細亞ノ諸州ヨリ此處ニ輻湊ス

(39) 通商路 印度ノ西北部ニ通シ得ベキ路數條アリ、

皆峻坂ニ依ラザルヲ得ズ、而シテ人ノ常ニ往來スルモ

ノハ、カラクラム峠ニシテ高サ壹萬八千五百五十呎、印度河レヨリ、イルナ若クハヤルカンドニ通ズ、西方ハ

ミル高原ニハ、オクザス河溪ニ由テ通商シ、西北ニテハ

カスガル及ヒコカン間路或ハ、シルダリア溪ニ由テ、天

山ヲ跋涉ス、而シテ北方ニ至レバ、ムザルト峠ニ由テ、天

山ヲ越スニ宜シ、

ヤルカンドノ市場ニハ、甘肅ヲ經テ來ル支那茶及ヒ生

糸アリ、歐羅巴露西亞ヨリ來ル羅紗、砂糖アリ、其他印度

ヨリ來ル英國織物ヲ見ルヲ屢ナリ、

西藏

(40) 西藏ハ未ダ外國人ノ多ク遊歴セシヲナキヲ以テ

世人其模様ヲ知ル者頗ル稀ナリ、北ハ崑崙及ヒ南山ヲ以テ界シ、南ハヒマラヤ山之ガ境ヲ作シ、西ハバミルノ高原ニ達シ、東ハ楊子江及ヒ黃河ノ上流ニ及ブ、土地平均ノ高サ壹萬五千呎、面積凡ソ我本州ニ八倍ス

(41) 地勢 西藏ノ北部ハ露西亞人之ヲ探索シ、南部ハ英國政府ノ命ヲ受ケテ、印度土人竊カニ之ニ出入セリ、此輩ノ見聞セシ所ニ由テ見ニ、其邊境多クハ平原ニシテ、雜草之ヲ覆ヒ、所々ニ淡鹹ノ兩種湖アリ、其間高嶺秀峯聳ヘテ、頂上ニ萬秋ノ雪ヲ冠ル、而シテ原野ニハ羚羊、驢、山羊等アリテ以テ、聊原野ノ景色ヲ裝フ、住民ハ多ク、牧畜ヲ以テ業トシ、其富主ニ犛牛、山羊、羊等ニアリテ、民

常ニ水草ヲ逐テ住ヲ移ス、冬間ニハ山嶺ニ雪積リ、川河湖沼ハ皆堅氷ノ凍塞スル所ト成ル、七八月ノ頃些少ノ降雨アリ、

(42) 西藏ノ東北ニ一大湖アリ、青海ト云フ此近傍即チ「タングタン」族ノ居ル所タリ、此族ハ西藏人ニ似テ之ニ異ナリ、而シテ蒙古人トハ全ク別種ノ族トス、常ニ天幕ニ住ミ、牧畜ヲ業トシ、水草ヲ逐テ移リ、一所ニ定住セズ、青海ハ南山諸水ノ涵養スル所ニシテ、其位地海面ヲ抜ク、壹萬五百呎、周圍凡二百哩アリ、海中ノ西南隅ニ一島アリ、「ラマ」人之ニ居ル、而シテ海中船舶ヲキナ以テ、此輩ハ冬間堅氷ヲ渡リテ、島外ニ出ルノミ、青海ノ近傍大沼アリ、長サ

百五十哩ニ達ス之ニ由テ湖ノ四近西藏他ノ部分ト隔絶シテ殆ド孤立ノ姿ヲ呈ス、

(43) 西藏南方地勢中殊ニ著シキモノハ、ブラマプトラ河及ヒ印度河ノ深溪是ナリ、ブラマプトラハ東ニ流レ、印度河ハ西北ニ走ル、其間雪山ノ高嶺磐居ス、西藏高原ノ東方ニハ森林多ク、此地方ヨリ東南亞細亞ノ大川イラフデ、サルウイン、メコン、黄河、楊子江等其源ヲ發ス、中央西藏ノ最大湖ハ、ナムテ即チ天湖ト稱スルモノナリ、其位地海面ヲ抜ク、壹萬五千百九十呎、其長サ五十哩、幅廿哩アリ、四隣皆高山ニシテ、氷河之ヨリ降りテ湖ニ入ル、天湖ハ之ヲ神湖ト稱シ、其水邊堂宇多ク、此湖ニ詣

人種

ヅル者亦少ナカラズ、夏間湖水凍結セザルトキハ、溢レテ他湖ニ入ルト云フ、天湖ノ外又一湖アリ、サンボト云フ、環狀ヲ作ス、又溫泉ノ百三十度乃至百八十度ニ達スルモノ數多アリ、又噴泉少ナカラズ、

(44) 人種 西藏人ハ之ヲ歐洲人ニ比スレバ、丈高カラズ、髮黒シテ長ク、髻少シ、眼少クシテ細ク、頬骨秀デ、鼻小口大ニシテ唇薄シ、外觀支那人ノ如ク順柔ナリト雖モ、其勇悍ナルコト韃靼人ニ劣ラズ、

西藏ノ世ニ知レザルハ、清國政府ノ此ニ鎖國政畧ヲ行フガ故ニシテ、西藏人が自ラ好デ外國人ヲ擯斥スルニ非ズ、而シテ此國ニ於テハ、ラマ宗ノ行ハル最モ

甚シク其僧侶政權ヲ握ルナリ、是ヲ以テ都市皆寺院ヲ以テ填塞ス、蓋シ「ダライ、ラマ」ハ宗教上ノ長ニシテ、居テラサ府ニ置ク、ラサ府ハ西藏ノ首府ニシテ、サンボ湖ノ南ニアリ、海面ヲ拔クコ壹萬千七百呎、府ノ周圍二哩半、中央ニ金銀寶石ヲ以テ裝飾セル寺院アリ、之ニ隣シテ「アバング」ノ寺院アリ、僧侶ヲ入ルコ、凡七千七百、サンボ湖北涯ノシガツ府ニモ亦寺院數多アリ、ボブド、ラマ此ニ居ル、此僧ハ其位「ダライ、ラマ」ト均シト稱スレドモ、實際其下ニアリ、本府ノ僧侶三千ニ過グ、ラサ府ノ東凡五百哩、楊子江上流ニ於テ、リタング府アリ、金屋ノ寺院ヲ以テ有名ナリ、僧三千五百ヲ有ス、

政體

(45) 政體、ラサ府ニ清國將軍アリ、政事ヲ司ル、又要害

貿易

ノ地、清國ノ壘寨ヲ築テ以テ守ル、中央西藏ハ之ヲユ一及ヒ「サング」ノ兩省ニ別ツ、ラサハ即チ「ユ一」省ノ首府ニシテ、「シガツ」ハ「サング」ノ首府ナリ、西方西藏ハ「ラダク」ニ達シ、英國ノ保護ヲ受クルモノアリ、アリ省ノ如キ是ナリ、東方西藏ハ「楊子江」ノ上流ヲ越ヘ、支那本部ト接ス、此邊ヲカム省ト云フ、中央部ノ北邊ハ、稱總ホル省ト云フ、(46) 貿易、西藏西部ノ市場ハ、ガルトクニアリ、印度河ノ上流ニ位ス、夏期ニハ假家二百有餘アリ、ラサ府ヨリ「サンボ溪」ニ沿テ、ガルトクニ至ル良道アリ、之ニ由テ清國官吏ハ雪山南方ニ音信ヲ通ズ、遞信ノ距離八百哩ニ

達ス、甘哩或ハ十六哩毎ニ驛亭アリ、ガルトクハ金山ノ
 アル所タリ、往時ハ西藏及ビ印度ノ間貿易盛ナリシト
 雖モ支那人ノ西藏ヲ獲シヨリ、通路ヲ擁塞セシテ以テ、
 大ニ通商ヲ阻碍セリ、然レドモ今日ニ於テモ歐洲ノ産
 物西藏ニ入り、西藏人ハ砂金、麝香、馬等ヲアサムニ輸出
 ス、但通商ノ路ハネバルヲ經テ、ラダクニ出ルナリ、
 ラサ府ハ中央亞細亞ノ靈地ト仰ガルヲ以テ、參詣者殊
 ニ多シ、之加ナラズ、貿易モ亦昌ナリ、即チ十二月ニ至レ
 バ、茶、絹、氈、陶器等ハリタン及ビバタンクノ兩府ニ依テ、支
 那ヨリ入り、麝香ハラサ府ノ東北ヨリ來リ、寶石、羊、馬、ハ
 土耳其斯坦ヨリ、米、煙草、珊瑚、瑣珠、香物ハ、シキムニ依リ

印度ヨリ、番紅花ハ、カシミルヨリ來ルナリ、而シテ商人
 ハ夏期諸水ノ暴漲スル以前ニ皆此地ヲ去ル、

朝鮮國記

- (1) 滿州ノ南方ニ半島アリ、朝鮮ト稱ス、王政ヲ以テ國
 ナ建ツ、而シテ清國ハ朝鮮ヲ以テ其藩屏ト唱フルモ、其
 實進貢國タルニ過ギズ、蓋シ朝鮮ハ數百年間、鎖國主義
 ナ墨守セシヲ以テ、歐洲人ガ該國ノ事情ヲ探知センニ
 ハ、日本及ビ支那ノ文獻或ハ基督教宣教師ノ隨筆等ニ
 憑ラザルヲ得ズ、東西ノ長サ百五十哩、南北六百哩、面積
 八萬二千方哩、人口千五十二萬八千九百三十七、
- (2) 地勢、北ハ長白山ニ依テ滿州ニ境ス、朝鮮ノ西北

地勢

平安及び南滿州ノ間無人境アリ、幅廿五哩、平坦ニシテ往來ニ便ナリ、此地北ハ長白山ノ西端ヨリ、南ハ朝鮮灣ニ達ス、

國ノ東岸即チ日本海ニ瀕スル所、一流ノ山脈アリ、其麓急ニ海中ニ入ルヲ以テ、所々ニ斷岸絶壁ヲ作ス、蓋シ此山脈ハ半島ノ骨髓ヲ爲ス者ナリ、又本脈中ノ山點ニ至テハ最高者八、一一四呎、次ハ六、三一〇呎、次ハ五、〇〇〇呎ニ達スル者アリ、本山脈ノ西方ハ次第ニ低地ト成リ、遠ク黃海涯ニ迄ブ、半島ノ東岸海邊圓滑ナルモ、西岸ニハ島嶼灣澳多シ、朝鮮所屬最大島ハクエルバルト島即チ濟州是ナリ、朝鮮ノ南五十哩ニアリ、島ノ長サ四十五

川河

(3) 哩、川河、半島ノ地勢東方ニ高ク、西ニ赴クニ從フテ平坦ナレバ、川河ノ主要ナルモノハ大抵黃海ニ入ル、鴨綠江ハ滿州境ニアリ、南西流シテ朝鮮灣ニ注グ、大同江及ヒ漢江モ亦黃海ニ入ルモノナリ、就中漢江ハ我隅田川ノ如ク、朝鮮首府京城ニ沿テ流ル、豆滿江ハ東北國界ニアリ、長白山ニ起リ、東北流スルヲ凡二百哩、俄カニ南ニ回リ海ニ入ル、黃屯江ハ南方ノ川ナリ、南流シテ釜山浦ニ朝ス、釜山浦ハ即チ日本人居留地ノアル所タリ、

(4) 氣、候、朝鮮ハ南北ニ長ク、又高低ノ差モ甚シケレバ、其氣候モ地方ニ從ツテ著シキ異同アリ、而シテ本半

氣候

物産
朝鮮門事記

島ハ緯度上ヨリ云ヘバ、我本州ト大同小異ト雖モ、朝鮮ノ氣候我ヨリ寒冷ナリ、夏期ニハ溫潤ノ海風西南ヨリ來リ、冬期ニハ北風長白山ヨリ來ル、冬期鴨綠江、豆滿江皆氷結シ、人馬氷上ヲ往來ス、釜山近傍ト雖モ、一月ノ頃ニハ華氏寒暖減廿二度ニ至ルコトアリ、

(5) 物産 東北ノ諸山ハ森林ニ富ミ、人口少シ、然レドモ西方平坦ノ地ニハ、米、麥、蕎麥、煙草、麻、綿等ヲ産ス、人參ハ朝鮮第一ノ物産ニシテ、主トシテ清國へ輸出ス、又虎彪、鹿、狐、兔、猪、狼等多シ、而シテ此等ノ獸皮モ亦有要ノ商品タリ、南方猿猴多ク、家畜ハ牛馬ニ止ル、冬期近海ニ鯨海豹等出沒ス、朝鮮亦金鑛ニ富ム、著者曾テ某所ニ於テ

人種

政體
如氏地理教科書

朝鮮金鑛ヲ目撃セシガ、實ニ美麗ノモノタリ、

(6) 人種 朝鮮人ハ蒙古人種ニ屬シ、容貌支那人ニ似テ色稍黒シ、文華ハ之ヲ支那ニ執ル、故ニ學者ノ輩ニアリテハ、支那ノ古文及ビ孔子ノ教ヲ專攻ス、通常ノ文章ニハ朝鮮固有ノ文字ヲ用ユルモ、公文或ハ其他大文字トモ稱スベキモノニハ、必ズ漢字ヲ用ユ、佛法ハ國人ノ普ク奉信スル宗教タリ、

(7) 政體 西曆千二百十八年成吉思汗ノ時ヨリシテ、新王即位スルニ當リテハ、必ズ支那帝ノ裁可ヲ受ルヲ例トセシガ、時勢變遷シ、今日ニアリテハ、此例モ唯儀式ニ止ルノミ、而シテ清國政府ハ最早朝鮮國ノ政事

ニ干涉スルノ權ナシ、國王專權アリ、然レドモ其權襲世貴族ノ制限スル所ト成ル、貴族多ク隸屬ヲ有ス、施政ノ法大ニ清國ニ類ス、國ヲ咸鏡、平安、江原、黃海、京畿、慶尙、忠清、全羅ノ八道ニ別ツ、

(8) 貿易 朝鮮ノ外國貿易ハ輓近マデ唯日本及ヒ支那ノ兩國ニ止レリ、而シテ支那商ハ進貢使ノ歸國スル際、朝鮮ニ來リ、通商スルノ許ヲ受ケタリ、其他鴨綠江東涯ニ於テ、支那商ノ時々貿易ニ從事セシマアリ、日本人ハ釜山ニ於テ千五百九十二年以來貿易ニ從事ス、千八百六十六年佛蘭西兵ヲ遣テ、曩ニ殺害セラレシ宣教師ノ爲メ報ユル所アラントセシガ、軍敗レテ退陣セ

リ、千八百七十一年米國亦佛國ノ轍ヲ蹈メリ、然ルニ千八百七十六年ニ至リ、日本政府ハ竟ニ朝鮮政府ト通商條約ヲ締結セリ、千八百八十二年米國亦條約ヲ結ベリ、於是英國及ヒ其他諸國皆米國ノ例ニ倣ヒ、條約ヲ締結セリ

右條約ニ由リ、南岸ニ釜山、東岸ニ元山、西岸ニ仁川ヲ開キ、外國貿易已ニ繁昌ヲ極ムニ至レリ、輸出品ノ主ナルモノハ米、豆、獸皮、砂金、鯨骨、人參、生糸等トス、

安南國記

(1) 安南ハ北支那本部ニ隣シ、南東蒲寨ニ界シ、東ハ支那海ニ瀕シ、西ハ山嶺ヲ距テ暹羅ト境ス、面積十七萬方

哩、人口千八百萬、

千八百八十三年八月二十三日ノ「ヒュ」條約ニ由リ、安南ハ實際佛國ノ屬國ト成レリ、

(2) 東京即チ安南ノ北方ハ山深フシテ、カス族ノ棲息スル所ナリ、カス族ハ此地ノ土蕃ニシテ、之ヲ通常ノ安南人ニ比スレバ、色淡淺ニシテ、骨格逞シ、而シテ安南人ハ矮少ニシテ、容貌蒙古人種ニ類シ、頭髮褐色ニシテ長シ、

ソシカ河ハ國ノ中央ヲ潤ス、其江口豐饒ニシテ、多ク米ヲ生ズ、海岸ニハ漁業盛ニシテ、其收穫獨リ國民ノ需用ニ供スルノミナラズ、亦多ク支那南部ニ輸出ス、氣候ハ

支那本部ノ北地ニ似テ、寒暖ノ差極メテ甚シク、夏期ニハ時々大風襲來シテ大害ヲ爲ス、

(3) 安南北方ノ氣候ハ極メテ健康ニ宜シ、而シテ乾潤ノ兩節ニ別ル、乾節ハ西南モンスーンノ期ニ當リ、潤節ハ東南モンスーンノ期ニ際ス、蓋シ東南モンスーンハ支那海ヨリ濕氣ヲ吹送シ、其水氣凝結シテ雨降スルモ、西南風ノ濕氣ハ安南西邊ノ山嶺ニ遮ラレ、此地ニ來ルトキハ已ニ乾風ト成ル、故ニ復タ雨ヲ降サズ、

安南ハ錫蘭ト共ニ、肉桂ノ産ヲ以テ天下ニ名アリ、國ノ南方即チ東蒲寨界ノ山嶺森林中ニ「モイ」或ハ「ロイ」ト稱スル蕃族アリ、此地ノ土蕃ナリト云フ

(4) 十三世紀蒙古人支那ヲ侵領セシ以前ニハ、安南モ亦支那帝國ノ一部タリキ、而シテ今日ニアリテテ國王ハ尙支那帝ヲ尊崇スト雖モ、是唯外觀ノ尊崇ノミ、政体ハ兵權制ナリ、國ヲ軍區ニ別テ、將軍之ヲ治ム、男子十八歳ヨリ六十歳ニ至ルノ間ハ、兵役ニ服スベキ義務アリ、世人多ク孔子ノ學及ビ佛教ヲ奉信ス、然レドモ俗民ノ間又別ニ一種ノ宗教アリ、十七世紀葡萄牙「ゼスウイ」ト基督教ヲ傳説セシガ、其徒今日ニアリテ尙存在ス、國語ハ支那語ト異ナリト雖モ、國民多ク漢字ヲ用ユ、

(5) 安南ニハ著シキ工藝ナシト雖モ、船匠ハ此國民ノ

長所タリ、安南支那間ノ貿易ハ大ニ盛ナリ、而シテ國王親ヲ商業ニ從事スト稱スルモ、貿易ハ主ニ居留支那人ノ手裏ニアリ、物産ノ主ナルハ銀、石炭、米、砂糖、生糸、肉桂、象牙、ゴム等ナリ、ヒュエハ安南ノ首府ナリ、國ノ東岸ニアリ、佛國工兵此ニ強固ノ壘寨ヲ築キテ以テ守ル、ケシハ東京ノ首府、ソシカ河口ヲ瀾ル百哩ニ在リ、貿易繁昌ノ地タリ、千八百七十四年及ビ七十六年ノ條約ニ由リ、ハノイ及ビテ、ナイノ兩港ヲ外國貿易ニ開キ、千八百八十五年ノ條約ニ由リ、清國政府ハ東京ヲ佛國ニ讓與セリ、ソシカ河ノ運漕開クルニ至ラバ、之ニ由リテ雲南地方ニ至ルノ貿易路ヲ得ベシト云ハ、世人ノ豫定スル所タリ

南交趾支那記

(1) 南交趾支那ハ安南ノ南端ニアリ、十八世紀ノ終、佛國王路易第十六世安南國王ヲ助ケタルヲ以テ、其國ノ一部ヲ佛國ニ讓與スルノ約ヲ結ビタレドモ、其後種々ノ擾亂起リ、約束未ダ履行セザリシニ、千八百十九年次代ノ安南王佛國ノ宣教師ヲ殺害セリ、於是乎千八百五十七年佛國兵ヲ安南ニ遣リ、問罪ノ師ヲ起シ、二年間メコン河上ノ西貢ヲ封鎖セシ後、竟ニ千八百六十三年ニ講和條約ヲ締結シ、佛國即チ南交趾支那ヲ占領セリ、千八百六十七年西方ノ三郡親ヲ佛國政府ニ降服シ、千八百八十三年佛國チアンポノ地ヲ獲テ益其領地

ヲ攬メタリ

(2) 佛國ノ領地ハメコン河ノ兩側ニアリ、面積二萬七千五百九十方哩、人口百六十五萬、地平坦ニシテ濕氣甚シク、且ツ暖熱ナルヲ以テ、草木ノ繁茂スルヲ著シ、然レドモ氣候ハ健康ニ宜シカラズ、國チ三帶ニ別ツ、海邊ノ地ハ雜木繁茂ス、之ニ次デ沼地アリ、蘆蒲多シ、第三帶ハ地磬稍高ク、森林ニ富ム、米ヲ産スルヲ最モ夥シ、其他物産ニ綿、煙草、地荳、砂糖、麥類、藍、麻、栗樹、ゴム樹及ビ木材果實等アリ

(3) 國民ハ主ニ安南人ヲ以テ成ル、然レドモ亦支那人、東蒲寨人、巫來由人等アリ、歐洲人ハ唯二三百人ニ過ギ

ズ、國ヲ七大別シ、復之ヲ幾多ノ郡村ニ分割ス、西貢ハメ
コン河ノ一支流ニアリ、河口ヲ溯ル凡四十哩、市街ニ歐
風ノ建築アリ、又支那人ノ住居アリ、大体ヨリ云ヘバ、未
ダ繁昌ノ都市ト稱シ難シ、

東蒲寨國記

(1) 東蒲寨ハ東北安南ニ界シ、東南佛領交趾支那ニ接
シ、西北ハ暹羅ト相對シ、西南ハ暹羅灣ニ臨ム、面積凡三
萬二千四百方哩、人口八十九萬

(2) 國ノ東部ハ平坦ニシテメコン河ノ漂堆土ヲ以テ
成ル、夏期ニハ南モンソーン來リテメコン河水暴漲シ
其兩岸ニ溢ル、此地米ノ産スルト多量ナルヲ以テ、昔ハ

安南ノ倉廩ト稱セリ、國ノ西部ハ山野ニシテ森林ニ富ム、
タレ湖ノ溢レテメコン河ニ入ル所タリ、タレ湖ノ長サ
百餘哩、乾節ニハ人多ク湖邊ニ集リ漁業ヲ營ム

(3) 東蒲寨ノ土蕃ヲ「クメル」ト稱ス、容貌歐洲人ニ類ス、
往古此民ノ文華ニ浴セシハアンコル等ニアル寺院ヲ
見テ知ルベシ、然リ而シテ、國民一般ヨリ云ヘバ、混合人
種ニシテ、隣邦ノ族合シテ成ルモノ、如シ、ウドンハ舊
都ナリ、國ノ中央ニ位ス、現今ノ首府ヲプノム、セント稱
ス、タレ湖ノ排水路及ビメコン河ノ交接スル所ニアリ、
支那人多ク此ニ居ル、川ニ幾多ノ小舟ヲ浮ベ、以テ商業
ニ従事ス、

(1) 國民ハ
自國チタ
イ成ハム
イ云クイ
ト云クイ
國ノ意ナ

記 事 門 暹 羅 國 記

(四七三)

暹羅國記⁽¹⁾

(1) 後印度ノ中央ニ一國アリ、暹羅ト稱ス、北ハ緬甸ニ
 界シ、東ハ安南及ヒ東蒲寨ニ接シ、西ハ英領緬甸ト山峯
 ニ依テ相距リ、巫來由半島ノ中部ニ達シ、南ハ暹羅灣ニ
 臨ム、面積殆ド廿八萬千方哩、人口五百七十五萬、
 (2) 暹羅國中地ノ最モ豐饒ナルハメナム河岸ナリ、此
 河六月ヨリ十一月ニ至ルノ間、常時漲溢シテ近傍ノ地
 ナ潤ス、故ニ農民ハ河水ノ乾潤ニ由テ米穀ノ作非ヲ占
 フ、メナム河亦緊要ノ運漕路ニシテ、暹羅人ノ漸進化セ
 ルモノ皆河邊ニ住居ス、東北部ニハラチ族居ル、其人暹
 羅人ヨリハ骨格稍柔弱ニシテ、色黒ク、專ラ獸獵ヲ事ト

氣候

如 氏 地 理 教 科 書

人種

(五七三)

ス、ラチ族ハ三年ニ一回暹羅國府ニ貢ヲ贈ルト雖モ、族
 中酋長アリテ之ヲ統御シ、自立ノ姿アリ、巫來由半島ニ
 アル部分ハ殆ド獨立ニシテ、巫來由族ノ酋長時ニ貢物
 ヲ贈リテ、暹羅國ノ藩屏タルヲ表スルノミ、
 (3) 氣候 南方ノ氣候ハ大別兩節アリ、即チ南モンソ
 ンノ節ハ溫熱ニシテ濕潤、北モンソーンノ期ニハ晴
 冷ニシテ乾燥ナリ、森林ニ富ムノ地廣フシテ、林中麻栗
 樹及ビ其他良材ヲ産ス、亦鑛物寶石ヲ出ス、然レドモ此
 國最要ノ物産ハ米ナリ、
 (4) 人種 暹羅人ハ總人口ノ凡三分一ヲ占ム、色淡褐
 ニシテ、五体平均ヲ得、丈我邦人ト伯仲ス、ラチ族他ノ三

分一ヲ占メ、餘ハ支那人及ビ巫來由人ヲ以テ成ル、商業ハ主ニ支那人ノ手裏ニアリ、暹羅人ハ遊惰民タルニ過ギズ、巫來由人ハ或ハ農ヲ勤メ、或ハ海賊ヲ働ク、

(5) 政體、國民別レテ數族ト成リ、上ハ王侯ヨリ下奴隸ニ及ブ、政權ハ王侯貴族ニアリ、主宰權ハ國王ニ存ス、王位ハ襲世タリ、然レドモ必ズ長子ノ繼續者タルニ限ラズ、行政上國ヲ四十一州ニ別ケ、各州ニ知事ヲ置ク、

(6) 普通教ハ佛教ナリ、寺院所々ニ散在ス、而シテ奴隸ノ弊習未ダ存在スルヲ以テ、工業ノ如キハ殆ド之ナシト云モ可ナリ、但宮裏ニアリテハ文華大ニ開ケタリ、

(7) 都市、暹羅ノ主府ヲバンコクト云フ、人口凡六十

萬メナム河口上二十哩ニアリ、王宮此ニアリ、又多ク寺院ヲ有ス、河ニ數百ノ船ヲ浮ベ、以テ家屋ニ換ユ、舊府ヲアユテ、アト稱ス、河口上四十五哩ニアリ、西曆千三百五十年ノ建都ニ係リ、千七百六十六年緬甸ト兵ヲ交ヘシ際破壊セラレタリ、暹羅灣ノ西首府ノ東南ニシ、ンダバ

ンアリ、有名ノ貿易市ナリ、ラチ地方ニハルアンフラバ

ンニ人口最モ多ク、巫來由半島ニハ其東岸ノスンゴラ

ニ漸盛大ノ商業アリ、其他ケダ、バタニ、カランドン、トリ

ンガヌ等ハ巫來由族ニ屬セシガ、千八百二十一年暹羅

ノ版圖ニ歸セリ、

緬甸國記

(1) 緬甸國別レテ兩部ト成ル、一ハ即チ英領緬甸ニシテ他ハ緬甸帝國是ナリ、
 英領緬甸 (1) 英領緬甸ノ東北部ヲアラカント稱ス、
 ロマ連峯ノ西方ニ在リ、西ハベンガル灣ニ臨ム、其海岸島嶼多シ、低地ノ氣候ハ健康ニ宜シカラズ、熱帶地方ノ動植物多ク此ニ産ス、沼地所々ニアリ、米ヲ作ルニ最モ適ス、蓋シ米ハ此地ノ常食料ナリ、土民ハ印度人及ビモハメダン人ナリ、然レドモムグスト稱スル土蕃モ亦少ナカラズ、
 舊都ヲアラカント云フ、海岸ヲ去ル凡五十哩、アキヤブハ沿岸ノ島中ニアリテ有要ノ津港ナリ、

(2) 國ノ南方ヲベグト稱ス、千八百五十二年英國ノ占領スル所ト成レリ、其位置イラワデ河ノ兩岸ニ跨ガリ、河口ノ平地ヲ占ムル極メテ大ナリ、平地ノ面積凡壹萬方哩、細流四通五達、米ハ此地ノ主産物ナリ、而シテ高地ニアリテハ彼造船材ノ魁タル麻栗樹頗ル多シ、此地ノ舊都ヲベグト云フ内地ニアリ、ラングンハ人口十三萬餘、イラワデ河口ノ東涯ニアリ、バセイイン其西岸ニアリ、共ニ緊要ノ都市ナリ、
 べグノ人民ハ多ク緬甸人ニ屬スト雖モ、亦カレンスト稱スル一種ノ蕃族アリ、其口碑ニ曰ク、此民原北地ヨリ移住セシモノナリト、而シテ今ハべグ東北ノ山野ニ棲

息ス、

(3) 英領緬甸ノ最南部ハ、テナセリム即チ是ナリ、其地位巫來由半島ノ西岸ニ横ハリ、サルウインノ下流ヨリクヲ地峽ニ達ス、海岸ニハ岩礁絶壁多ク、内地ハ森林ニ富ミ多ク野獸ヲ産ス、象、犀、虎、殊ニ夥シ、又石炭及ビ鐵ニ富ムト云フ、

首府ヲマウルメイシト稱ス、麻栗樹ヲ輸出スル所タリ、西岸ノ群島ヲメルギ群島ト云フ、鳥巢ノ食スベキモノヲ出ス、之此地ノ主産物タリ、

英領緬甸ノ海岸西南モンソーンノ節ハ潤期(五月ヨリ十月ニ至ル)ニシテ、東北風ノ候ハ乾節ナリ、

氣候物産

緬甸帝國 (1) 緬甸帝國ハ後印度半島ノ北方ニアリ、東北ハ雲南省ニ界シ、西北ハ印度ノアサムニ隣ス、而シテ南方ハアラカン、暹羅及ビ東京ト相對ス、面積廿萬千七百方哩、人口凡四百萬、蓋シ緬甸帝國ハイラワデ、及ビサルウイン河沿岸ノ最豊饒ノ地ヲ含有ス、

(2) 氣候及物産 大体ノ地形ハ南ニ低シテ、北ニ山嶽多ク、五月ノ初旬緬甸ハ溫度百度ニ過グ、同月下旬西南モンソーン來リテ雨ヲ降ス、此節ノ溫度平均八十二度ナリ、

河邊ニ米、玉蜀黍、小麥、砂糖、烟草、綿、藍等ヲ産ス、森林ニハ貴重ノ麻栗樹多シ、礦産モ亦乏シカラズ、即チ川床ニ金

アリ、東山ニ銀アリ、又石炭、鐵、銅、鉛、石油、琥珀、玉、藍寶石等ヲ出ス、動物ニハ象、犀、虎、彪、猪アリ、白象ハ王家ノ最モ愛スル所タリ、

(3) 人種 緬甸人ノ本據ハイラワデー河ノ沿岸ニアリ、骨格平均ヲ得、相貌矮少ニシテ、膚色淡褐、頭髮眞黒、性活潑ノ人種ナリ、其學問及ビ工業ニ至リテハ、印度人或ハ支那人ニ及バズ、社會別レテ七級ト成ル、王族、官吏、兵士、僧侶、商人、農家、及ビ無賴徒是ナリ、政体ハ君主擅制ニシテ、生命財產皆帝ノ欲スル所ニ從ハザルヲ得ズ、
「ベグ族ノ子孫、モーン族ハ緬甸人ト混和セシト雖モ、西方ノ深山ニハ尙未ダ蕃族アリ、」
「シ、ン族ハ性溫順ニシテ

貿易

克ク業ヲ勤ム、之後印度ニ多數ヲ占ムルノ族ナラン、
「シ、ン」人ノ口碑ニ曰ク、此族原一大強國ノ民タリ、其政府雲南ニアリシト、而シテ今日ニアリテハ其國亡ビテ、復昔日ノ遺跡モナシ、暹羅蓋シ、
「シ、ン」國ノ後ナルカ、
「シ、ン」族ノ言語ハ暹羅語ト同フシテ其方言異ナリ、緬甸南方ノ山中ニハ今尙野蠻アリ、或ハ曰ク、之此地ノ土蕃ナリト、
緬甸及ビ、
「シ、ン」國ノ宗教ハ佛教ニシテ、之ヲ遵守スルヲ極メテ嚴ナリ、國中寺院多シ、

(4) 貿易 緬甸其豐饒ナル沿岸海ヲ失ヒシヨリ、貿易大ニ衰ヘタリ、内地ノ交通ハイラワデー河ニ憑ル、英國商漁船會社ヲ設ケ此河ノ運漕ヲ司ル、
「イラワデー河頭ニハモ

都市記

配國甸緬門事記

都アリ、雲南ヨリノ通商路三條此ニ集合スルヲ以テ、
モ都ハ極メテ緊要ノ市場タリ、唯山路險惡ナリ、故ニ之
ヲ跋渉スルニハ六週間ヲ要ス、

(5) 都市、イラワデ河ノ沿岸都市群集ス、
アヴァ都ノ舊跡モ此ニアリ、十四世紀ノ間國名モ亦アヴァト稱セリ、
アラプラハ千八百十九年以前ノ首府ナリ、同年ヲ以テ
再ピアヴァヲ首府トセシガ、千八百三十九年地震ノ爲メ
ニ破壊セリ、此時都ヲ對岸ノムツホボニ移シ、後竟ニ之ヲ
マンダレイニ置キ、此ニ帝城ヲ築キタリ、マンダレイハ
繞スニ城隍壘壁ヲ以テシ、郭外ニハ樹林羅列ス、イラワ
デ河ノ下流ニバガン都ノ舊跡アリ、九世紀ヨリ十三世

如氏地理教科書

紀ニ至ルマデノ國都タリ、美麗壯觀ノ宮殿家屋ノ舊跡
ヲ以テ名アリ、其寺院ノ多キ、竟ニ緬甸人ヲ限リナ
キコバガンノ寺院ノ如シト言ハシムルニ至レリ

巫羅加記

暹羅國ノ西南ニ一大半島アリ、巫來由半島ト稱ス、其英
國ニ屬セザル部分ハ今尙巫來由人ノ手ニ在リ、蓋シ巫
來由人ハ沿岸地ヲ占有シ、土蕃ヲ山中ニ逐放セシモノ
ナリ、

巫來由人ノ支配スル所ハ其大サ凡ソ我九州ト伯仲ス、
森林ニ富ミ又象、虎、猿、猴、鱷、毒蛇等多シ、氣候極メテ暖潤、
材木、砂糖、沙谷米、胡椒、ガタバルナ、ハ此地ノ良産ニシテ、

(1) 英國人
所謂
ノ
イ
ツ
ト
メ
ル
ツ
ト
メ
ル
ツ
ト
メ
ル

礦物ノ富モ亦頗ル大ナリ、
半島ノ西岸ニペラク及ビセランゴルアリ、支那海ニ瀕
スル所バハンク及ビシホルアリ、皆巫來由人酋長ノ支
配スル所タリ、巫來由人ハ十三世紀ニ回々教ニ歸化セ
シト雖モ、之ヲ嚴守セズ、然レドモ彼亞良比亞語ヲ將テ
神語トス、巫來由人ノ逐放セシ黑人種ヲ彼、チラング、ウ
タント稱ス、蓋シ森中ノ人ト云フ意ナリ、

英領海峽殖民地記⁽¹⁾

(1) ペナング及ビ其對岸地ウエルスレイ州ハ海峽殖民
地ノ北端ニシテ、印度洋及ビ支那海貿易路ノ咽喉タリ、
材木、香物、砂糖並ニ藍ヲ以テ此地ノ物産トス、國民ハ主

ニ巫來由人及ビ支那人ヲ以テ成ル、歐洲人ノ殖民地ハ

ペナング島ノ西岸シタルシ都ニアリ

(2) ペナング及ビマラカ都ノ間ヲデインデイングト云フ、
面積我四國ニ及バズ、海邊二三ノ漁村アリ、古來海賊ノ

巢窟タルニ過ギザリキ

(3) マラカハ半島ノ西南端ニアリ、多ク穀粉及ビ沙谷

米ヲ出ス、又良礦山ヲ有ス、

(4) 新嘉坡島ハ半島ノ南端ニアリ、千八百十九年英國

ガシ、ホルノ酋長ヨリ買得セシ所タリ、南支那海通商ノ

要地ナリ、都市ノ劃區極メテ正シク、別レテ洋人街、支那

人街及ビ巫來由人街ト成リ、鐵壘ヲ築テ以テ守ル、

(5) 右ニ列記セシ諸國即チ安南、交趾、支那、東瀟、暹羅、緬甸、巫羅加等ハ西洋人ノ所謂ル後印度ヲ作スモノナリ、已ニ之ヲ叙述シ終ヘタレバ、更ニ陸地ヲ逐テ北行シ、印度ノ大半島ニ入シカ、將タ船ヲ藉テスマトラ島ニ航シ、以テ東印度諸島ヲ巡週センカ、印度固ヨリ緊要ノ地タリ、一日モ早ク其風土ヲ知ルコト重要ナリト雖モ、東印度諸島ハ我國ニ接近シ、且將來大ニ貿易擴張スベキ望アレバ、之亦須臾モ忽ニスベカラズ、巫來由ヨリ印度ニ到ルハ、陸地ニ憑ルモ可ナリ、然レバ則チ風波未ダ起ラザルノ際、余ハ學者ト共ニ先ヅ東印度諸島ヲ巡遊セントス、

東印度諸島記

スンダ及マルカス諸島 六五、〇〇〇 方哩 人口 二七、三〇〇、〇〇〇
 フリツピン及スル諸島 二四、〇〇〇 方哩 人口 七、五〇〇、〇〇〇

(1) 巫羅加海峽ヨリ支那海ヲ擁シテ、台灣ノ南天ニ擴ガル一大島群アリ、群島ノ概形新月ヲ作シテ北ニ向フ、島ノ大ナルモノスンダ群ニスマトラ、ジャバ、ボルネオ、セレベスアリ、フリツピンニ呂宗、ミンダナオアリ、其他小島ニ至リテハ、其數殆ド幾何ナルヲ知ズ、此地一定ノ恒風アリ、航海モ爲メニ危險ナラザレバ、民多ク舟子タリ、走舸四方ニ奔リ、河口船家ヲ以テ充滿スルハ、蓋シ東印度群島ノ奇觀トス、

南米ブラジル熱帯ノ地方ハ草木繁茂スルヲ世界ニ比
 ナシ若シ此地ヲ除カバ東印度ノ如ク動植繁昌スルノ
 地々球上復看ルヲ得ズ而シテ此群島ハ活火山ノ大園
 中ニアルヲ以テ島トシテ火山アラザルハナク地震ヲ
 來スヲ亦多シ博物學博士ウラス氏ハ本群島ヲ動植上
 亞細亞及ビ濠州ノ兩境ニ別テタリ、

後印度及ビスマトラ、シヴァ、ボルネヲ並ニフリツピン
 群島ノ間海漸淺シ之ニ由テ視ルモ此地方ノ亞細亞
 大陸ト分離セシハ遠キニ非ザルヲ知ルベシ而シテ
 ボルネヲ及ビスマトラノ象及ビ豹ハ印度ノ種類ニ
 同シク、シヴァノ野狐ハ大陸ニ居リ長尾猿ハ巫來由半

島並ニ群島中ニ棲ム然ルニ右等ノ動物ハ今日大陸
 及ビ諸島間ニアル海洋ヲ泳渡シ得ルモノニ非ズ然
 レバ則テ諸島ニ此等ノ動物アルヲ以テ視ルモ群島
 ノ前日大陸ト接續セシヲ推知スルニ至レリ、
 バリ及ビロムボク島ノ間ボルネヲ及ビセレベスノ
 間ヨリスル海ヲ過ギフリツピン群島及ビモラツカ
 ス群島ノ間ニ深海アリ即テ東西ノ島嶼ヲ劃別ス而
 シテ此深海ノ東ニアル諸島ハ皆生物學上濠州ニ屬
 ベキモノ、如シ、

夫濠州ニハ猿猴、虎彪、鹿、象ノ類居ラザルノミナラズ、
 印度地方ノ動物ハ一トシテ之ヲ見ズ之ニ反シ濠州

ニハ袋有動物即チ袋鼠「チボサム」ノ類アリ、又雉及ビ
 啄木鳥ニ換ハルニ「ブラジールタルキー」及ビ「コカト」
 アリ、今バリ島ヨリロムボク島ニ入レバ、兩島動物ノ
 異ナルヲ彰然トシテ明カナリ、ボルネオ及ビセレベ
 スノ間復動物ノ差異アリ、即チ前者林中ニ猿猴アル
 モ、後者之ニ換ハルニ「チボサム」ヲ以テス、
 巫來由人種ノ東漸セシ地方モ亦前陳動物境界ト殆
 ド符合ス、即チスマトラ、シブア、ボルネオ、フガリツピン
 群島並ニセレベスニハ巫來由人其海岸ニ居チ占ム
 ト雖モ、之ヨリ東方ノ諸島ハ皆「パプア」人種ノ居ル所
 タリ、

(2) 邦制上ヨリ云ヘバ、群島ノ南部ハ和蘭國ニ屬ス、其
 中シブアハ最モ豊饒ニシテ、又最モ開進セシ地タリ、
 フリツピン群島ノ北部ハ西班牙政府ノ所有ニシテ、英
 國ハラブアン島及ビボルネオノ西北サラウク並ニガ
 バチ有シ、葡萄牙ハ尙チモルノ一島ヲ握ルナリ、而シテ
 ボルネオノ内地ハ未ダ獨立酋長ノ下ニアリテ、西洋諸
 國ノ占領ヲ受ケズ、
 (3) スマトラ島ハ巫來由半島ノ西南ニアリ、南北ノ長
 サ壹千哩、赤道ヲ中央トシテ西北及ビ東南ニ横ハル、大
 サ我本州四國及ビ九州ヲ合併セシモノ、如シ、西岸ニ
 ハ高原峻峯アリ、インドラブラ山ノ如キハ高サ壹萬二

千百四十呎ニ達ス、赤道ヨリ少シク北ニアリ、大川ハ多ク、澗溪ヲ經テ東流ス、物産ニハ米、玉蜀黍、椰子、沙谷、棕櫚、砂糖、綿、煙草等アリ、而シテ黑胡椒、米及ビ樟腦ヲ以テ輸出品ノ主ナルモノトス、
 回々教徒巫來由人並ニ土蕃ノ一族ヲ以テ國民ノ過半ヲ占ム、其數凡四百萬、和蘭國全島ヲ所有スト稱スト雖モ、歐洲人ノ島中ニ居ル者極メテ少ク、内地ノ如キハ未ダ之ヲ稽查セズ、實ニ獨立ノ姿ナリ、北方ニ亞支那人ト稱スル殺伐ノ人種アリシモ、和蘭國竟ニ之ヲ從ヘタリ、和蘭領ヲ別ナテ五區トス、西岸地、ベンクローレン、ラムボング、バレムバング及ビ東岸地是ナリ、

西岸ノ都市ニバダングアリ、此地ノ首府タリ、タバヌリハ北方ニアリ、ベンクローレンハ南方ニアリ、多ク胡椒ヲ出ス、シアクハ東岸和蘭殖民ノ首府トス、
 (4) スマトラノ東北巫羅加海峽ノ咽喉ニ當リリチウ群島アリ、極メテ豐饒ニシテ和蘭國ニ屬ス、胡椒及ビ材木ヲ近海ノ諸島ニ出スト多シ、首府チリチウト云フ、ピンダング島南方ノ小島ニ在リ、リチウノ酋長ハ今日ニアリテハ和蘭政府ニ隸屬ス、リンガ島ハ赤道ノ南、スマトラノ東ニアリ、トムベラン島ハ新嘉坡及ビ、ボルネオノ間ニアリ、アナムバハ其北、ナトナハ支那海ニアリ、共ニ和蘭國ニ屬シ、リチウ殖民廳ノ管轄ニ歸ス、

(5) リナウ島ノ南スマトラノ東ニバンカ島アリ、長サ百三十哩、森林ニ富ム、バンカノ東ニピリトン島アリ、バンカ島ト共ニ錫山ヲ以テ著名ナリ、毎年ノ採掘高壹萬噸ニ下ラズ、

(6) シンガ島ハスンダ海峽ヲ以テスマトラト離レ、東西ニ横ハル、長サ六百哩、幅五十哩ニ過ギザル所アリ、面積我本州ニ及バズ、土地極メテ豊饒、島中山峯連綿トシテ、高キハ壹萬二千五百呎ニ達ス、亦火山多ク、噴吐スルヲ屢ナリ、千八百八十三年八月クラカトア山暴噴ノ如キハ、近世ノ最烈噴吐タリ、

シンガハ熱帯ノ諸島中最モ豊饒ニシテ、人口稠密物産最

モ多キノ地タリ、土地ノ高低二千呎以下ナルモノハ米、玉蜀黍、藍、砂糖、苜蓿、胡椒、ヴァニラ等ヲ耕作スルニ適當ス、深山幽谷ノ地、並ニ西方ノ高原其高サ二千呎乃至四千呎ノ間ニアルモノハ、氣候溫和ニシテ、咖啡樹及ビ茶樹園ニ最適ノ地タリ、已ニ四千五百呎以上ニ昇レバ、大氣寒冷、十一月ヨリ三月マデハ西モンソーン風來リテ雨ヲ降シ、其他ハ東風吹テ乾節ヲ來ス、

本島ヲ開拓シテ、其富源ヲ稽查シ、亦其人口ヲシテ夥多ナラシメシハ、良ニ和蘭貿易商會ノ力タリ、土蕃、シンガ人ハ原巫來由人種ニ屬ス、溫和ニシテ、能ク業ヲ勤ム、十五世紀ノ際、回々教ヲ宣布セシガ、此教大ニ勢力ヲ得テ、

竟ニ婆羅門教ヲ撤去スルニ至レリ、支那人亞良比亞人並ニ印度人ノ島中ニ居ル者少ナカラズ、然レドモ千八百萬餘ノ人口ハ、僅々二萬八千ニ過ギザル、歐洲人ノ爲メニ支配セラル、都市ノ名義上、土蕃ノ酋長ニ屬セルモノニツアリ、而シテ其實ハ和蘭政府ニ隸屬ス、政体ハ君主擅政ナリト雖モ苛酷ナラズ、島中ヲ廿三區ニ別ツ、東北岸ノマドラ島モ亦此中ニアリ、土民ハ和蘭政府ノ爲メ、勞役ニ服スベキノ義務アリ、島ノ西北ニバタビア都アリ、唯ニ本島ノ首府タルノミナラズ、亦和蘭領東印度ノ京城タリ、此都貿易極メテ盛

ニシテ、新嘉坡トノ間、電線ノ架設アリ、サマラングハ北岸ノ中央ニ位セル要港ニシテ、別レテ歐洲人、支那人、巫來由人並ニ亞良比亞人、街ト成ル、サマラングヨリ南岸ニ沿ヒサラケルヲ經、美麗ノ耕地ヲ過ギテ、ドシクシケルヲニ達セル鐵道アリ、マドラヲ隔離セル海峽瀕ノスラバヤ並ニ東方ノプロボリンゴハシ、ウ、東方ノ要港タリ、(7) ボルネヲ、濠州、綠國及ビ新ギニアヲ除カバボルネヲハ世界中ノ最大島タリ、其位置西北ハ支那海ニ瀕シ、南ハシ、ウ、海ニ臨ミ、東南ハマカサル海峽ヲ距テセレ、バス島ト相對シ、東北ハバラバク海峽ニ由テフリツビ

ン群島ト界ス、南北ノ長サ八百哩餘、東西六百哩ニ過グ、内地ノ模様ハ未ダ之ヲ詳ニセズト雖モ、山嶽起伏トシテ四方ニ流走スルガ如シ、已ニ知ル所ノ最高峯ハ北隅ニ位セルキニバル山ニシテ、壹萬三千六百七十哩ニ達ス、カプアス河ハ内地ノ山間ヨリ出テ西南ニ流レム、ロング河ハ南ニ走リテ、スンダ海ニ入り、クタイ河ハ東流シテマカサル海峽ニ注グ、島中鐵樹、麻栗樹、ガタババルナ、棕櫚、籐竹、等ノ森林多シ、之即チ猩々ノ巢ヲ作ルノ所タリ、而シテ象ハ此地ニ産セズト雖モ、彪、鶩、鹿、水牛等頗ル夥シトス、人口大約二百萬、主ニデ、アクス族タリ、此族ハ之ヲ通常

ノ巫來由人ニ比スレバ、丈漸高ク、骨格大ニ優レリト雖モ、思フニ同種タルベシ、沿海ノ地ニアル者ハ、或ハ巫來由人ノ隸屬ト成リ、或ハ海賊ヲ働ク、而シテ内地ニアル者ハ實ニ浪流ノ民タルニ過ギズ、信回々教巫來由人ノ外支那人數百アリ、或ハ海岸ノ地ニ貿易ニ從事シ、或ハ鑛山ニ使役セラル、東岸ニハセレベス島ノ殖民地アリ、其數亦少ナカラズ、島ノ過半ハ名義上和蘭政府ニ屬ス、(8) 和蘭領ハ土蕃王國ノ幾多ヲ含有スルモノニシテ、別シテ西岸及ビ東南岸ノ兩區ト成ル、
ポシテ、アナクハカプアス河ノ河口ニアリ、西岸區ノ和蘭太守ノ廳ヲ置ク所タリ、ラシダクハポシテ、アナクニ

隸屬スル地ニシテ、即チ世界第一ノ金剛石、ラジャー、チフ、マタン(三六七カラット)ヲ發見セシ所タリ、ラシダクノ北ニモントラドアリ、此ニ金坑多シ、

バンゼルマツシングハ其地位ポンテ、アナクニ對當シテ、南岸ニアリ、東南岸廳ノアル所タリ、南方ノ貿易港ヲタ、ボリニアウト云フ、

サマリンドハ、クテイ河岸ニアリ、ボルネヲ東方ノ要地タリ、

(9) サラワクハ西北岸ニアリ、千八百四十一年以前廿七年間ハ、英國人サール、ゼームス、ブルーク氏一箇人ノ資格ヲ以テ之ヲ支配シ來レリ、蓋シ此人大ニ國ヲ開キ、

又沿海ノ海賊ヲ撲滅セシノ功アリ、而シテ今日ニアリテハ、同氏ノ子孫自ラ之ヲ支配ス、

獨立巫來由王國ブルネイハ、サラワクノ東隣ニアリ、支那海ニ瀕ス、其酋長ハブルネイ府ニ居ル、府ノ近海ニラブアン島アリ、貴重ノ石炭アリ、且南支那海ノ軍港トシテ便宜ノ地タルヲ以テ、千八百四十六年英國之ヲ占領セリ、

(10) サバハボルネヲノ北端ニアリ、輓近ブルネイ及ビスルノ酋長之チ一ノ英國商會ニ讓與シ、該商會ハ每歲貢ヲ酋長ニ入ル、土地ノ過半ハ森林ニシテ、又山嶽多シト雖モ、海岸ニ幅十五哩乃至廿哩ノ平地アリ、氣候及ビ

土壤トモ、咖啡、椰子、西米、^{カカ}煙草等ノ耕作ニ適ス、海邊ニ石炭アリ、東北ニ良港ナ有ス、

(11) セレベス、島ハ中央ノ一點ヨリ別レテ四出ス、之山脈中央ニ集合シ、四方ニ流走スルガ故ナリ、其面積我本州ニ超過スト雖モ、幅員ノ百四十哩ニ餘ル所ナシ、熱帶ノ物産盡ク此ニ生ズ、然レドモ森林少クシテ水牛或ハ他ノ家畜ヲ養フニ宜シ、馬ハ本島ノ名産タリ、綿、鳥巢、鼈甲、煙草、沙谷米等ヲ多ク新嘉坡並ニ支那地方ニ出ス、南方ニハ金、錫、銅、鐵並ニ石炭アリト云フ、

ボルネオニ比スレバ、人口稍稠密、内地ノ人種ナ、ト、ラヤスト云フ、世人ノ未ダ深ク探知セザル者ナリ、海邊ニハ

「アギス族アリ、膚色淡黃褐ニシテ、他ヨリ移住セシモノ如シ、

セレベスハ和蘭之ヲ全領シ、又之ヲマカサル、メナド及ビトモリノ三大區ニ別ツ、マカサル區ハ南方半島スム、バワ島並ニフロリス島ノ一部ヲ含有シ、メナド區ハ北方半島サンギル並ニタラウト島ニ跨ガリ、トモリ區ハ其近傍ノ地ヲ統括ス、

マカサル府ハ南半島ノ西岸ニアリテ、スンダ海ニ面ス、之即チセレベス島ノ首府ニシテ、シ、ヴ及ビ新嘉坡トノ貿易中心タリ、メナドハ北方ノ首府ニシテ、島ノ北端ニアリ、サンギル島ハ火山ヲ以テ著名ナリ、同島ノアブ山

屢暴噴シテ害ヲ爲セシヲ甚シ、

(12) シンサ、以東ノバリ並ニロムボクハ別ニ一區ヲ爲ス、

ロムボク島中ニ東印度群島ノ最高山アリ、首府ナアム
バナムト云フ、兩島ヲ隔離セル海峡邊ニアリ、

(13) ロムボクニ隣スルモノハスンバワ島ナリ、マカサ

ル區ニ隸屬ス、島中森林鬱蒼トシテ、多ク麻栗樹並ニ枸
子ヲ産ス、北岸ニダムボラ火山アリ、高サ九千四十呎、千

八百十五年此山暴噴シテ人ヲ害セシヲ、壹萬二千ニ及
ベリ、國民ハ信回々教巫來由人ニシテ、名義上和蘭政府
ノ管轄ニ歸ス、

(14) スンバワ島ノ東ニフロリス、スンバ、ロムブレム、バ

シタル、ナムバイ等ノ諸島アリ、之ヲ過グレバ、ティモル島

ニ到ル、島民ハ主ニ「バプアン」人ナリ、フロリス島ノ西部

並ニテ、モルノ東方ヲ除クノ外ハ、諸島皆葡萄牙ニ屬ス、

首府ハクバングニシテ、ティモル島ノ西南ニアリ、ティリハ

同島ノ北岸ニアリ、之葡萄牙殖民主廳ノアル所タリ、

(15) モラカス群島、和蘭領島ノ最東ナルヲ總稱シテ、

モラカス群島ト云フ、別レテ三大區ヲ爲ス、

第一ハアムボイナ區ナリ、此ニ入ルモノハ、ブル島及ビ

セラムノ西部トス、第二ハバンダ區ト稱ス、セラム島ノ

東部ヲ初トシテ、バンダ群島ノ中央ヨリ、ケイ、アルノ諸

島ヨリテ、モルラウト並ニ西南羣島ニ迄ブ、第三區ハテ

ルナテ區ト稱ス、ギロロ大島ヨリ西ハセレベス島ノテ
モリ灣ニ達シ、東ニハワイグ、バタンタ、サルワテ、ミソル
ノ諸島並ニ新ギニアノ西部ニ及ブ、蓋シモラカス群島
本部ハハルマヘラ島ノ西テルナテノ近海ニ碁布セル
幾多ノ小島ニ限ルト雖モ、モラカス群島ノ名稱次第ニ
擴ガリ、竟ニ此近海ノ島嶼ニシテ、彼美麗ノ荳蔻ヲ産ス
ルモノハ、皆此羣島ニ編入スルニ至レリ、
(16) フリツピン群島 東印度諸島ノ北境ヲ作スモノ
ヲ、フリツピン群島ト云フ、二箇ノ大島及ビ幾多ノ小島
ヲ以テ成ル、北大島ヲ呂宋ト云ヒ、南大島ヲミンダナ
ト稱ス、各我九州ヨリ大ナリ、之ニ次グモノハ、ミンドロ

バラワン、バナイ、ネグロス、ゼブ、レイト及ビサマルニシ
テ、又之等ヨリ一層小ナルハ、マスベート及ビボホルノ
兩島ナリ、島中山峯崎嶇トシテ、景色雅美ナリ、又火山多
シ、南呂宋ノアルベイ山ノ如キハ、高サ八千五百呎ニシ
テ、常ニ煙ヲ出ス、山林ニハ、黒檀鐵樹、松柏、蘇木アリ、又米、
砂糖、煙草、麻、カカナ、咖啡等ヲ産ス、島中猛獸ヲ見ザルハ
頗ル奇ナルガ如シ、然レドモ金羽紫翼ノ禽、怪様奇貌ノ
鮮介多シ、蓋シフリツピン群島ハ、マゲランガ有名ノ航
海ヲ爲セシ際發見セシ所タリ、氣候別レテ三季ト成ル、
冷乾ノ節ハ東北風將ニ到ラントスル十一月ニ始マリ、
酷暑早天ノ節ハ三月ヨリ五月ニ到ル、炎氣瓶中ニ座ス

ルガ如シ、潤節ハ六月西南風ト共ニ始マリ、九月若クハ十月ニ迄ブ、

本島ノ人民ハ些少ノ西班牙人ト支那人トヲ除クノ外ハ別レテ二類ト成ル、第一類ハ「イタス」即チ西班牙人ノ小黑奴ト稱ヌルモノニシテ、色黒褐、頭髮羊毛ノ如ク、骨格整頓シテ、敢テ他ニ隸屬セズ、内地ニ居ル、第二類ハ巫來由人種ノ一族ニシテ「タガルズ」及ビ「ピサヤス」ト稱ヌルモノナリ、其中或ハ基督教ヲ奉シ、或ハ回々教ヲ信ズト雖モ、多クハ拜像者タルガ、若クハ無宗教ノ者ナリ、
西班牙政府ハ島中チ數州ニ別チ、文武ノ官ヲ置テ之ヲ支配ス、マニラハ西班牙領ノ首府ニシテ、呂宋ノ西岸ニ

在リ、卷煙草ヲ以テ世ニ知ラル、又西ハ歐洲、東ハ合衆國ニ至ル迄、砂糖、麻、煙草、咖啡等ヲ出シテ、盛ニ貿易ヲ爲ス、イロイロハパナイ島ニアリ、第二ノ要港ニシテ、多ク麻ヲ輸出ス、ゼブ島ノゼブ府ミンダナ島西南岸ノザムボア

(17) スル、羣島ハミンダナ及ビボルネノ間ニアリ、パシラン、スル、及ビタ、井、タ、井ノ三羣島ヲ以テ成リ、スルノ酋長其一部ヲ支配シ、西班牙政府其殘部ヲ領ス、
(18) 東印度群島ノ最北島ハバシ—島ト稱ス、ダム、ピエル、千六百八十二年ヲ以テ之ヲ發見シ、千七百八十三年西班牙之ヲ占領セリ、

印度國記

印度ハ亞細亞ノ南方ニアル一大半島ナリ、而シテエリ
ザベス女帝倫頓商ノ印度地方ト通商セシモノニ特典
ヲ與ヘシヨリ、以來此半島ノ英國ノ支配ヲ受ル、日々
ニ益廣ク、今日ニ至リテハ、其過半英國ノ手裏ニ歸シ、竟
ニ英人ナシテ印度ヲ以テ、英國王冠ノ瑞寶ト稱セシム
ルニ至レリ、

(1) 凡ソ印度ノ地理ヲ知ントスル者ハ、先其廣袤ノ巨
大ナルヲ明ニスベシ、面積凡ソ我國ニ十五倍シ、南北ノ
長サヲ視ルニ、樺太ノ北端ヨリ、琉球ノ南端ニ到ルニ近
シ、而シテ東西ノ幅員、其最モ廣キ所ニ當リテハ、殆ド南

北ノ長サト伯仲ス、

人若シ日ニ十哩ヲ旅行シ、印度ヲ橫斷セントセバ、其要
スル所ノ日子百五十日餘タルベシ、

(2) 北ハヒマラヤ山ノ連峯ニ依テ、天然ノ界ヲ爲シ、西
北ハスレイマン山脈ヲ以テ、亞加業坦及ヒ皮路直坦ト
隔ル、而シテ東方ニハ、南アサムノ高原、緬甸ノイラワデー
河溪ト印度ノブラマプトラ谷トヲ隔離ス、國ノ西南、亞
夏比亞海ニ臨ミ、東南ハベンガル灣ニ瀕ス、兩岸南ニ赴
クニ從フテ、次第ニ接近シ、終ニコモリン岬ニ至リ合ス、
蓋シ陸地ニ由テ隣邦ト界セル所ハ、其海岸ト均シク、長
サ凡ソ三千哩ナリ、然レバ則チ一方ヨリ云ヘバ、印度ハ

大陸國ト稱スベク又一方ヨリ視レバ之ヲ沿海國ト云
フモ可ナリ而シテ亞細亞ノ内地ヨリ印度ニ入ラント
セバ必ズ峻阪險路ニ憑ラザルヲ得ズ海岸長シト雖モ
長港極メテ稀ナリ故ニ之ニ由テ上陸セントスルモ亦
危険ナリ豈良ニ要害堅牢ノ國ニ非ズヤ

(3) 地勢 印度地勢ノ最モ著シキ模様ハヒマラヤ即
チ雪山ノ大山脈是ナリ蓋シ雪山ノ連峯ハ印度北方ノ
高原ニ起リ長サ千八百哩ニ達シ印度河及ヒブラマブ
トラ河間ニアル雪山ノ平均高ハ壹萬三千呎山麓ノ平
均幅百五十哩ナリ最高頂即チエヴェレスト峯ハ二萬九千
三呎ニシテ印度河上流ノ峠ハ千六百呎ニ下ルモノ稀

ナリ本山脈ノ南方ニ小山脈アリ小山脈ト平地ノ間タ
ライト稱ス沼地アリ森林鬱蒼トシテ雜木繁茂シ猛獸
毒蛇多ク此ニ潜伏ス而シテ此地ノ氣候極メテ毒惡ナ
ルヲ以テ人生ノ生活シ得ザル所トス西北ノスレイマ
ン山ハ森林ニ富ミ高サ壹萬千三百呎ニ達ススレイマ
ン山ノ西北隅即チ此山脈ノ將ニ雪山ト接セントスル
所鹽山ト稱スル丘阜アリ鹽山ノ名ハ印度河此丘阜ヲ
通過スル所ニ當リ純粹ノ岩鹽層河床ニ露出スルニ由
ルナリ

(4) 雪山及ビスレイマ山ノ南方ニ北印度ノ廣原ア
リ西ハ亞良比亞海ヨリ東ベンガル灣ニ達ス其西方砂

土ヲ以テ成リ、殆ド石礫ナク、土地極メテ荒蕪ナリ、然レ
 ドモバンジブノ高原ハ土地豐饒ニシテ、駱駝、牛馬、水牛、
 羊等ニ適スル牧野多シ、其南方ニ印度ノ沙漠即ナター
 ルアリ、沙丘隴ヲ作シテ所々ニ散在ス、此沙漠ヲ越ユレ
 バ、印度河ノ下流ニ出ヅ、此ニシンドノ塵原アリ、其海岸
 ニハカクノラント稱スル奇々妙々ノ土地アリ、平低ニ
 シテ長サ百五十哩、一根ノ草木ヲ見ズ、常ニ鹽華ノ覆壓
 スル所ニシテ、平沙浩々更ニ目標タルベキモノナキヲ
 以テ、旅人ノ路ヲ失フヲ往々コレアリ、而シテ西南風ノ
 節ニハ、海潮來リテ土地ヲ覆没シ、水ノ深サ一二呎ニ達
 ス

北印度廣原ノ東方ハ即チガングス及ヒブラマプトラ
 兩河ノ潤ス所ニシテ、土地極メテ豐饒、耕耘ノ業大ニ發
 達シ、多ク砂糖、綿、藍、米、麥、阿片、煙草、麻等ヲ産シ、人口モ亦
 稠密ナリ、此地沼多ク、河流縱横シテ、森林鬱蒼タリ、林中
 虎、水牛、鷲、猿猴等多シ、

(5) 廣原ノ南方土地漸ク隆起ス、今此方ニ向テ進メバ、
 第一ニアラヴァリ山アリ、東北ヨリ西南ニ横ハリ、廣原ノ
 西境ヲ作ス、山脈ノ長サ凡四百哩、山勢西側ニ急ニシテ、
 東側ニ緩シ、平均ノ高サ三千呎、アブ峯ハ三千八百五十
 呎ニ達ス、山脈ハグシラト半島ニ至リ終ルナリ、
 アラヴァリ山ノ背後ニマルワ及ヒブデルカンドノ高

原アリ、土地豊饒ニシテ丘阜縱横ス、原ノ高サ千五百乃至二千呎、其南ヴンデ、ア山ヲ以テ界ス、ヴンデ、ア山ハカムベイ灣頭ニ起リ、東北ニ流走スルヲ凡五百哩ニシテ、カレンデス河ノ冲道ニ達ス、其高サ凡二千三百呎、斷岩絶壁ヲ作シテナルバダ河溪ニ降ル、ナルバダ河ノ南ニサトブラ山アリ、ヴンデ、ア山ト並行シテ東北西南ニ走ル、長サ二百哩ニ迄ブ、其最高峯凡二千呎、ナルバダ河ニ面スル山側ハ急ナルモ、タプテ、河ニ降ルノ所緩漫ナリ、

(6) タプテ、河ノ南ハデカンノ高原ニシテ、即チ南印度ノ半島ヲ爲スモ、是ナリ、其西境ニハ一帶ノ山脈カムベイ灣頭ニ起リ、西岸ニ沿フテ南方ニ流レ、竟ニニルギ

リ山ト合ス、長サ八百哩、山中ニ麻栗樹多シ、山脈ノ高サ北方ニハ二千呎ニ過ギズト雖モ、南ニ行クニ從ヒ高サ漸ク加ハリ、ボムベイ近傍ニハ四千七百呎ニ達ス、而シテ其最高峯ニ至リテハ七千呎ニシテ、峯頂岩石多ク、參差トシテ犬牙ノ如シ

半島ノ東岸ニモ亦一連ノ山脈アリ、之ヲ西涯ノ山脈ニ比スレバ、稍低フシテ峻ナラズ、内地ニ通ズルノ道數條アリ、平均ノ高サ千五百呎、最高峯ト雖モ三千呎ニ過ギズ、斯ノ如クデカン廣原ハ西ニ高クシテ、漸ク東ニ低降シ、原中丘阜多ク、樹木乏シ、然レドモ亦所々ニ森林ナキニ非ズ、而シテ已ニ開拓セシ地方ハ多ク綿麥、薯蓣等ヲ

産シ、椰子ハ到ル所ニ野生ノモノアリ、
 (7) 東岸山脈及ビコロマシデル岸ノ間、廣濶ナル平原
 アリ、幅五十哩ニ至ル、若シ灌水ノ便ヲ得バ、此地方ノ
 沃野ト成ルベキハ疑ヒナシ、東岸山ヲ追テ南ニ至レ
 バ、有名ナルコイムバートル溪ニ出ヅ、此ニ東西ノ兩岸ニ
 通ズル低地アリ、マドラス府及ビセイプル間ノ鐵路モ
 亦此地ヲ經過ス、而シテコイムバートル河ノ北涯ニハニ
 ルギリ山巍然トシテ起リ、其南涯ニハアアマライ山天
 ナ衝テ聳ユ、蓋シ之南印度ノ最高峯ニシテ、海面ヲ抜ク
 コ實ニ八千八百三十五呎ナリ、アアマライ山ノ南方ハ
 カルダモン山ニシテ、山中樹木多ク、之ヲ望ムニ鬱蒼タ

川河

リ、此山脈南走スル百八十哩ニシテ、コモリン岬ニ至リ、
 峭壁削ルガ如キノ斷岸ヲ爲シテ終ル、
 (8) 川河 印度ニ二大川アリ、一チカンヂスト云ヒ、又
 一チ印度川ト稱ス、カンヂス河ニハ三十餘萬ノ舟子常
 ニ運漕業ニ従事ス、亦以テ此河ノ内地商業ニ益スルノ
 大ナルヲ知ルベシ、海船ハヒヅリ河ニ寄りカルク、上
 方ノチ、ンドラナガルニ到ルヲ得、又小漁船ヲ以テスレ
 バ、コウンプルルニ達スルニ宜シ、コウンプルルヨリ運
 河三百五十哩ヲ開鑿シ、以テ舟楫ノ便ニ供ス、故ニ船ハ
 ルドワルニ達フルヲ得、ハルドワルハ河口ヲ去ルコト千
 三百哩ニシテ、即チカンヂスノヒマラヤ山溪ヲ出ル所

タリ、
ガンヂスノ支流ジムナ川ニ憑レバ、舊京城タルデルヒ
ニ到ルベク、而シテ之ヨリ運河ヲ藉リ、尙二百哩溯ルヲ
得ベシ

ガンヂス河流ハ季節ニ由テ漲溢乾涸シ、爲メニ河道ヲ
變更スルヲ極メテ大ナリ、例ヘバベナレスニ於ケルガ
如シ、此地ニアリテハ、河ノ深サ或ハ三十五呎ニ止リ、或
ハ七十八呎ニ及ブ、而シテ其幅員モ深淺ト共ニ伸縮ス、
蓋シ河水五月ヲ以テ漲溢ヲ始メ、九月ニ水嵩最高ニ達
ス、七月ニハベンガルノ低地盡ク水下ニ没スルヲ以テ、
低原變シテ一体ノ湖ト化シ、唯所々ニ丘阜ノ水上ニ頭

ヲ顯スヲ見ルノミ、

(9) 印度北方ノ諸大川ハ皆雪山ノ雪融ケテ之ヲ涵養
シ、或ハ夏期西南風ノ吹送シ來ル潤氣凝結シテ雨ヲ降
スヲ以テ、其水盡ルコトナシ、故ニ春期雪融ノ頃ヨリ、河
水漸ク増シ、西南モンソーンノ節ニ至リテ、河彌深キヲ
加フ、

印度南方ニ源ヲ發スル諸川ハ「モンソーン風ノ涵養ス
ル所タルニ過ギズ、以是河水時節ニ由テ多少増減ス、西
方カムベイ灣ニ注グニ大河アリ、マルワ高原及ヒ西岸
山脈ノ北端間ニ西流ス、ナルバダ河ハ源ヲ印度ノ中央
ニ發シ、岩底石床ヲ奔流スル七百五十哩ニシテ、海ニ入

ル、岩流水ヲ阻塞スルヲ以テ、河流滞リテ或ハ池ト成リ、復タ溢レテ瀧ヲ作ス、故ニナルバダ河ハ舟楫ノ便ニ乏シク、而シテモンソーシ風雨ヲ來シ、河水増加スルトキハ、流勢大ニ加ハリ、河邊ニ害ヲ爲スヲ甚シ、ダプテ、河ハナルバダ河ノ南方ニアリ、サトブラ山脈ニ由テ兩河相隔ル、河床ニ岩石峨々トシテ、河水亦時々暴漲ス、其水減ズルトキハ、池ノ點々相連ルモノ、如シ、

(10) 印度南方ノ東岸即チベンガル灣ニ面スルノ所緊要ノ川河アリ、ガンダス河ニ隣スルモノチマハナデ、河ト云フ、源ヲ印度ノ中央ニ發シ、東流シテ海ニ入ル、河口ヨリ四百哩間舟行スベシ、然レドモ暴漲スルトキハ、害

ヲ爲スヲ甚シトス、此河東岸山ノ北ヲ匝リ、平原ニ出ヅ、其間四十哩、水深フシテ流レ緩ナリ、而シテ其海ニ入ルノ所、河流四分五裂シテ大洲ヲ作ス、

マハナデ、河ノ南ニアルチゴダヴ、リ河トス、デカン高原中ノ最長川ナリ、源ヲ西岸山ノ東麓ニ發シ、東ニ向テ流走ス、長サ九百哩、而シテ東岸山溪ニ入ルヤ、兩岸迫テ奔流涯ヲ嚙ミ、龍飛ビ、虎嘯クノ勢ヒアリ、其間廿哩、之ヲ出ヅレバ、河流廣原ニ擴リ、水中島多ク、此ニ尖塔ヲ設ケテ觀ヲ副ユ、河ノ下流ハ運河多ク、又灌水路夥シ、其海ニ入ルノ所大三角洲ヲ爲ス、

クリスナ河ハ其隣河ゴダヴ、リノ如ク、西岸山ノ東側ニ

氣候

發源シ、流道深溪ヲ爲シテ高原中ヲ過ギ、東方ノ平地ニ出ツ、其長サ八百哩、麻栗樹林間ニ流ル、此河流急激ナルヲ以テ、舟行ノ便ナシト雖モ、其支流ニ至リテハ、麻栗樹ヲ流下スルニ大ニ便ナリ、

バナルバラル及ビカヴァリモ皆此地方ノ大川ナリ、カヴァリ河ハ源ヲニルギリ山ノ北方ニ發シ、二大瀧ヲ作シテ東方ノ高原ヲ降ル、高原中ノ流道長サ三百七十哩、原下ノ長サ四百六十哩、河涯ノ風景雅美ナリ、而シテ其平原ヲ流ルノ所、小舟以テ溯ルベク、又灌水ニ便ナリ、河口ニ至リ別レテ二流ト成ル、三角洲ノ幅八十哩

(11) 氣候 雪山ノ連峯ヲ攀登ルニ當リ、氣候及ビ植物

ノ次第ニ變化スルハ、前已ニ陳ベタル所タリ、而シテ山下ノ平原並ニ他ノ地方ニ至リテハ、炎熱、濕潤及ビ清冷ノ三季アリ、ガンダス河口ニ於テハ、春期四月ニ涉リ、氣候乾燥ナリ、五月ヨリ六月ニ至レバ熱氣日々ニ加ハリ、溫度百度ニ昇リ、殆ド堪ユル能ハズ、此時驟雨雷鳴時々西北ヨリ來リ、將ニ旱枯セントスル草木ヲシテ蘇生セシム、南方地方漸ク熱ヲ受ルニ從ヒ、モンソーン風初メテ西南ヨリ來ル、六月即チ此節ナリ、而シテ二三旬ヲ過グレバ此風北方ノ地ニ達ス、夫、モンソーンノ西南ヨリ來ルヤ、黑雲之ニ從ヒ、陸ニ近クニ及デ、雲益累ナリ、電光發シテ雷鳴起リ、竟ニ覆盆ノ雨ヲ降ス、此時ヨリシテ霖

雨絶ハズ、草木皆起キ、河水漲溢シ、復晴天ヲ看ルコト稀ナリ、而シテ七月ニ至リテ、降雨ノ勢最モ逞シク、之ヨリ次第ニ減シ、九月ニ及ンデ全ク止ム、此時西南モンソーン止ミ、東北風起リ、復雷電發シ、金蛇ヲ掣ス、抑東北風ハ亞細亞大陸ノ中央ニ起ルヲ以テ、其風寒冷ナリ、此風ノ過グル所、溫度六十五度ヨリ七十度ノ間ニ上下ス、東北風ハ十一月ヨリ二月ノ中旬ニ及ブ、此風ノ終ルヤ、再ビ炎熱ノ期到リ、復午睡ノ夢ヲ結ブヲ得ズ、但コロマンデル海岸ニアリテハ、東北モンソーン乾風ナラズシテ、雨ヲ降スコト、西南モンソーンノ印度西岸ニ於ケルガ如シ、斯ノ如ク、印度ノ氣候ハ劃然トシテ、乾濕ノ兩節ニ分ル

ヲ以テ、灌水溝ヲ堀リ、乾節ニ供フルコト極メテ緊要ナリ、是印度ニ灌水溝ノ數百アル所以ナリ、今西岸山ノ西側ヲ視ルニ、西南モンソーンノ節ハ、雨ヲ降スコト甚ダ多量ナリト雖モ、其東側ニ至リテハ、此際殆ド一滴ノ降雨ナシ、而シテ西南モンソーン少シク其風路ヲ變ジ、西岸山ノ西側ニ雨ヲ降サマルトキハ、忽チ凶歲アリ、但印度沙漠ニハ、雨ノ降ルコトナシト云フモ可ナリ、(12) 物産 印度ノ植物産ハ其種類殆ド限リナキヲ以テ、此ニハ唯其二三名ナルモノヲ記セントス、東西兩岸山中並ニ雪山ノ麓邊ニハ森林多クシテ、麻栗樹ニ富ム、北方ノ山嶺中ニハ、サル樹並ニ竹叢アリ、而シテ其深谷

ニ入レバ、栗、桑、核桃、デナダ^ル樹等鬱蒼トシテ其盡ル所ヲ見ズ、榕樹及ビ芒果ハ概チ各邑ニアリ、榕樹ノ枝葉繁茂シテ天蓋ヲ蔽フ、樹間ニ猿猴、鳥禽、大蝙蝠等多シ、香蕉及ビ砂糖ハ諸所ニ耕作ス、ミソアルニハ檀香木ノ最良材アリ、^{バルミラ}棗樹、檳榔、ハ到ル所トシテ、殆ドアラザルハナク、^{マラバル}海岸ニ繁殖ス、穀物ニハ米、黍、粟、小麥等アリ、輸出物ニハ、藍、阿片、煙草、薑、麻、綿等アリ、西岸地方ハ能ク胡椒、白荳蔻ノ産出ニ適シ、咖啡ハ^{ニルギリ}山地方ニ耕作ス、又野園ニハ幾多甘香ノ花卉アリ、

(13) 印度ハ野獸ニモ、亦珍奇ノモノアリ、象ハ原來深叢

中ノ野獸ナリト雖モ、之ヲ畜養スルトキハ、極メテ從順ノ家畜ト變ズ、西北ノ乾地ニハ、駱駝及ビ野驢アリ、犀、水牛、虎、熊、羆、狼、野猪、猿猴等ハ森林ニ棲息ス、獅子ハ唯西北地ニ限り産ス、麋鹿、野牛、^{ニルガイ}等ハ山野ニ多ク、山羊ハ^{カシミル}高山ニ産シ、犛牛ハ雪山ノ峻峯ニ居ル、而シテ南方ノ平原ニハ、駝背牛アリ、孔雀、鸚鵡、鷺鳥、^{フラミンゴ}雉等ハ野禽ノ主ナルモノナリ、^{ニル}鱷ハ川ニアリ、^{ニル}鱉ハ灣ニ棲ム、蛇、蝎ノ類、大小其幾百ナルヲ知ズ、而シテ世人ノ最モ恐惡スルモノハ冠帽蛇即チ是ナリ、

(14) 金屬礦物大概皆印度ニ産ス、然レドモ鐵ヲ除クノ外ハ、未ダ有要金屬ノ多量ニ産出スルモノヲ聞カズ、石

人種

炭ハ諸方ニ産ス、而シテ其產地ノ主ナルモノハカルクダ
 近傍ノバルドロン、及ビアサム是ナリ、金ハミソアルニ
 アリ、銅ハデルヒ及ビ其他ニ出ヅ、パンジブノ西北ニ岩
 鹽アリ、其外沿海ノ地方ニハ、海ヲ煮テ鹽ヲ採ル、金剛石
 紅寶石、藍寶石、綠寶石等ハ多少各地ニ産ス、但一時著名
 ナリシゴルコンダノ金剛石ハ已ニ盡キタルガ如シ

(15) 人種 印度ノ人種ヲ大別シテ、北方ノ「アリヤン」人
 種及ビ南方ノ「非」アリヤン「人種トスルハ、前已ニ述ベタ
 ルガ如シ、而シテ此區別タルヤ、自ラ國語ノ區別ト符合
 スルモノニシテ、即チ北方ニハ「サンスクリト」派語ヲ用
 井ルモ、南方ニハ「ドラヴィディアン」及ビ「コリアン」語ヲ使

用ス

右兩區別間ニ立ツベキ驛味ノ蕃族アリ、就中重要ノ種族
 チ枚擧スレバ「ビルス」及ビ「ゴンヅ」族是ナリ、之等蕃族ハ「ヴ
 ンデヤ」山間マルワ高原或ハ「グシラト」半島ニ居ルモノニ
 シテ、之前陳區界中ニ編入シ能ハザル種族ナリ、思フニ、之
 等ハ中央印度ノ土蕃タルヘシ「アリヤン」種ニ屬スベキ
 土蕃ハ東北ノ「ベンガリ」族「アサミス」族、ガンダス平原ノ印
 度族西北ノ「ラシユプト」族「シアツ」族、パンシブノ「シクス」族「デカ
 ン」高原西北ノ「マラタス」族「ボムベイ」以南沿岸ノ「コンカニ
 ス」族ニシテ、南方人種ニ入ルベキモノハ「タミリアン」「テル
 グ」「トルヴァ」等ノ諸族是ナリ

(16) 人種ノ別、斯ノ如ク多キヲ以テ、開化ノ度モ亦種族ニ由テ、大ニ異同アリ、即チ「ベンガリ族」ハ、學術ニ於テ、印度土蕃中最高ノ位置ヲ占ルト、雖モ、孱弱ニシテ、衰微スルノ傾キアリ、之ニ反シ、西北ノ山間ニ居ル者ハ、勇悍猛壯ナリ、「マラタス族」ハ、剛強ニシテ、能ク業ニ勵ミ、「ゴーンツ」族ハ、慘酷ニシテ、復讐ノ念深ク、其性亞非利加人ニ似テ、常ニ弓矢ヲ帶ブ、英領ニ歸服セシ地方ニハ、普通教育ヲ布シ、ンガ爲メ、英國政府ニ於テ、年々百萬磅ノ金額ヲ消費ス、而シテ「カルクタ」、「マドラス」及ビ「ボムベイ」ニハ、已ニ完全タル大學アルノミナラズ、之ニ隸屬セル專門學校モ亦七十ニ過グ、

産業

17) 産業 國民多ク農業ニ從事ス、然レドモ印度人ハ我國民ノ如ク、農事ニ熟達セル者ニ非ズ、耕耘ニハ牛ヲ用井、五穀ハ鎌ヲ以テ刈收ス、作物ノ主ナルハ米ニシテ、八月及ビ十二月ノ兩回ニ收穫ス、綿ハ各地ニ産シ、又麻絹糸ヲ作り外國ニ輸出ス、印度ノ織物ハ古來文明國ニ名ヲ博セシモノニシテ、今其著シキモノヲ舉レバ、デルヒノ花緞、ダッカノ袈裟布、カリコットノ更紗、カシミールノ搭膊巾、ムルタンノ絨氈等ナリ、然レドモ今日ニアリテハ、此業已ニ亡ビタリ、印度ノ建築術ニ至リテモ、少ク見ルベキモノハ皆古代ニ屬ス、

(18) 貿易 印度内地ノ貿易ハ極メテ盛ナリ、而シテ鐵路已ニ一萬哩ニ超過スルヲ以テ、大ニ運輸ノ便アリ、ベ
 ンガル及ビ西地方間ニハ、穀物ヲ以テ鹽ニ易フ、又ベナ
 レスノ靈地ニ參拜スル者、或ハハルドワルノ市場ニ到
 ル者、四方ヨリ雲集ス、故ニ南方ノ金剛石ヲ賣テ、カシミ
 ルノ搭膊巾ヲ買フノ便アリ、貿易路ノ多ク集合スルハ
 パンジブ、ブノアタク及ビベサワルナリ、此地カルクマヨ
 リハ鐵路並ニ車道アリ、ボムベイヨリハ印度河ニ憑テ
 船ノ便アリ、其他印度ノ各地方ヨリ道路此ニ集合シ、此
 ヨリカブル、比耳西亞、及ビボカラ等ノ地ニ到ル、
 此等ノ通路ニ依リ、英國ノ木綿、陶器、磁器、藍、砂糖、香物、茶

及ビ瑣珠ハ北ノ方、土耳其斯坦ニ到リ、又レニ並ニカラ
 マラム道ニ憑テ、ヤルカンドトノ貿易ヲ爲ス、而シテ西
 藏トノ貿易ハ皆雪山ノ峻坂ニ出デザルハナシ、アサム
 及ビ支那ノ間、未ダ好陸路ノ相通ズルモノナシ、南方ニ
 ハ沿岸貿易盛ニシテ、ベンガルノ穀物、砂糖、油、生糸等ヲ
 以テ、エロマンデル沿岸ノ産物ト易ヘ、亦之ヲマラバル
 ノ檀香木及ビ胡椒並ニボムベイノ麻栗樹ト買フ、錫蘭
 海峽殖民地、新嘉坡並ニ支那トモ亦盛ナル貿易アリ、而
 シテ輸出物ノ主要ナルハ綿、麻、米、茶、獸皮等トス
 (19) 政体 邦制上ヨリ云ヘバ、印度ハ別レテ左ノ如ク
 成ル

(一) 大貌列顛國政府ノ直轄ニ歸ス州十二、其面積殆ト全
 印度ノ半ニ及ブ (二) 英國政府ニ隸屬シ、印度貴族ノ支配
 ナ受ル地方 (三) 雪山山腹ニ散在セル獨立州 (四) 佛蘭西及
 ビ葡萄牙ノ小領地

印度邦制概要

(甲) 英領印度千八百八十一年調

(壹) 英領諸州

- 一 ベンガル 一五五、九九七方哩
 六六、五三〇、〇〇〇人口
- 二 アサム 五五、三八四方哩
 四、八一五、〇〇〇人口
- 三 西北州 一〇五、九六二方哩
 四四、一〇七、〇〇〇人口
- 四 パンジブ 一〇七、〇〇〇方哩
 一八、八五一、〇〇〇人口

- 五 中央州 八四、二〇八方哩
 九、八〇五、〇〇〇人口
- 六 英領緬甸 八七、二二〇方哩
 三、七〇八、〇〇〇人口
- 七 マドラス 一四〇、四三〇方哩
 三〇、八三九、〇〇〇人口
- 八 ボムベイ 一二六、四五三方哩
 一六、四五四、〇〇〇人口
- 九 アジメル 二、七一一〇方哩
 四五三、〇〇〇人口
- 十 ペラール 一七、七二八方哩
 二、六七一、〇〇〇人口
- 十一 クルグ 一、五八三方哩
 一七八、〇〇〇人口
- 十二 アンダマン及ニコバル島 三、二八五方哩
 三〇、〇〇〇人口
- 合 八八七、九六九方哩
 一九八、四四一、〇〇〇人口
- (貳) 英領所屬地 四七、四四〇方哩
 二、六〇四、〇〇〇人口

- 二 西北州
- 三 パンジブ
- 四 中央州
- 五 ボムベイ
- 六 マドラス
- (參) 太守直轄蕃地
- 一 ラジプタナ
- 二 中央印度
- 三 バロダ
- 四 ハイダラバド
- 五 ミソアル

五、一二五方哩
 七四四、〇〇〇人口
 一、一四、七四二方哩
 三、八六一、六八三人口
 二、九、一一二方哩
 一、七〇〇、〇〇〇人口
 六、六、四〇〇八方哩
 六、九四二、〇〇〇人口
 三、〇〇一、〇〇〇人口
 一、三〇、九九七方哩
 一、〇〇五、〇〇〇人口
 九、二〇一、〇〇〇人口
 四、三九九方哩
 二、一五五、〇〇〇人口
 八〇、〇〇〇方哩
 九、一六八、〇〇〇人口
 三〇、五〇〇方哩
 四、一六八、〇〇〇人口

- 六 マニプル
- 合
- (甲) 總計
- (乙) 獨立諸州
- 一 雪山州
- ネバル
- ブータン
- アサム以北州
- マサム以南州
- (乙) 總計
- (丙) 佛葡領地

七、五八四方哩
 一四七、〇〇〇人口
 六、一五、二二〇方哩
 五、四、七一五、〇〇〇人口
 一、五〇三、一八九方哩
 二、五三、一五六、〇〇〇人口
 五、六、七五〇方哩
 二、〇〇〇、〇〇〇人口
 一、三、六〇〇方哩
 二、〇〇〇、〇〇〇人口
 一、〇〇〇、〇〇〇方哩
 一、〇〇〇、〇〇〇人口
 一、三〇〇、〇〇〇方哩
 一、〇八、三三五方哩
 一、四三〇、〇〇〇人口

- 一 佛領
- 二 葡領
- (丙) 總計

ボンディセリ、チアングルナガル、カリカル、マヘ、ヤナン

一九六、方哩

二八〇、三八一人口

一、四三七方哩

四四四、九八七人口

一、六三三方哩

七二五、三六八人口

英領印度帝國ノ政事ハ印度大臣ノ掌ル所ニシテ、大臣ノ補佐トシテ、十五名ノ參事官ヲ置ク、孰モ皆印度ニ住居スルヲ、數年ニ涉リシ人ナリ、而シテ印度地方事務ハカルクタ駐在ノ太守ニ委ヌ、太守ハ大臣ノ命ヲ奉シ、事務ヲ掌ル、太守ノ下ニ六名ノ參事官アリ、外務、財政、農政、内務、軍務及ビ工部ノ事務ニ軼掌ス、マドラス及ビボムベイノ知事並ニベンガルノ將軍ハ皇帝親ヲ之ヲ任命シ、他州ノ知事將軍ハ太守之ヲ撰任ス、一般ノ行政事務

ハ登用試験ニ級第セシ歐洲人並ニ地方官ノ撰任セシ歐洲人及ビ土人ニ於テ之ヲ擔任ス、印度貴族ノ支配ヲ受ク諸州ノ行政ハ之ヲ土著ノ貴族ニ任セ、英國官吏ヲ置テ、之ヲ監督ス、歐洲人ヲ以テ成ル兵凡六萬五千、英國士官ノ指揮セル土兵十二萬五千アリ、土著貴族ノ兵總計凡三十一萬五千トス、
(20) 歳入、印度政府歳入ノ主源ハ地租ニナリ、其高全歳入ノ三分一ニ居ル、其他阿片税及ビ鹽税ヲ以テ、歳入ノ主要ナルモノトス、
阿片ハ定價ヲ以テ、其液ヲ政府ニ賣ルノ爲ニセザレバ、人民猥ニ之ヲ耕作スルヲ得ズ、ベンガルニアリテハ、

政府ノ精製所ニ於テ、阿片ヲ製シ、之ヲカルクタニ送り、復支那ニ輸出ス、ボムベイ州ニ於テハ、マルワ、グジラト等ノ地方ニ之ヲ製シ、關稅ヲ納メテ之ヲボムベイ府ニ輸出ス、

歲出ノ最高額ハ兵ノ維持ニ要スル金員是ナリ、其金額年ニ壹億圓ニ超過ス、

錫蘭島記

(1) 印度半島ノ南方ニ梨子形ノ一島アリ、錫蘭ト云フ、大サ我北海道ト伯仲ス、島ト大陸トノ間ヲバルク海峽ト稱ス、水極メテ淺シ、

島中小嶺縱横シ、氣候極テ好ク、山林モ亦鬱蒼タリ、最高

峯ヲペドロタラガラト云フ、海面ヲ拔ク八千二百八十

呎、之ニ次グハアダム峯ニシテ高サ七千四百二十呎

(2) 物産ノ主ナルハ咖啡、肉桂、椰子、煙草、藍、綿等ニシテ、野獸ハ印度ノモノト髣髴タリ、錫蘭ノ藍寶石ハ古來有名ノモノタリ、マナール灣ハ瑣珠ノ産ヲ以テ世間ニ名ヲ博ス、

(3) 人口凡二百七十五萬餘、シンガリス「タミリス」信回々教亞良比亞人等ヲ以テ成ル、深山ニハ「ウダ」ト稱スル一種ノ野蠻アリ、殆ド禽獸ニ近シ、在錫蘭英人ハ僅カ六千人ニシテ、他歐洲人ハ壹萬四千ニ過ギズ、普通教ハ佛教ナリ、

(4) 錫蘭ハ英領ニシテ、知事ヲ置キ之ヲ治ム、印度政府ニ屬セズ、最要ノ港ヲコロムボト云フ、島ノ西岸ニアリ、東洋貿易ノ一要所タリ、舊都ヲカンドイトス、山中ニ位ス、洋人曰ク、錫蘭ハ東海ノ珠ナリト此言本島ノ風土ヲ寫シ得テ妙ナリ

西比利亞國記

(1) 西ハウラル山ヨリ、東ハ太平洋ニ至リ、北ハ北洋ニ瀕シ、南ハ亞細亞中央ノ高原ヲ以テ界セルハ、即チ露領シベリアナリ、東西ノ長サ四千餘哩、最南ノ地ハ朝鮮ト境シ、北端チユスキン岬ハ北洋ノ氷山下ニ突出ス、故ニ緯度ノ差ハ三十五度餘ニシテ、其面積我國ノ面積ニ

地勢

殆ド五十倍ス、

(2) 地勢 西方シベリア即チウラル山東ノ地ハ平坦ニシテ、漸次北洋岸ヨリ隆起シ、キルギツ高原及ビ泰山下ニ擴ル、此原ノ北方ニハ「トンドラ」ト稱スル沼地アリ、地下ノ土壤常ニ凍結ス、中央ニハ森林アリ、已ニ開拓セシ所ハ、地味豊饒ニシテ、克ク農業ニ適ス、南方ニハ赭土ノ高原アリ、裏海及ビアラル海邊ニ亘ル、東方シベリアニ至レバ、地勢彌崎嶇タリ、而シテ泰山ノ連峯東北ニ蔓延シ、サヤン山之二次デ起リ、ヤブロノイ及ビスタノヴァイノ諸峯又其東北ニ聳ユルヲ以テ、平坦ノ地少シ、カムチツカ半島亦此地ニアリ、幾多ノ火山ヲ

氣候

載セテ南方ニ延長ス、半島中ノ最高火山ヲクリウチヤ
 峯トス、海面ヲ抜クテ壹萬五千七百六十呎、
 (3) オビ河、エニセイ河、レナ河(皆北洋ニ入ルモノ)及ビ
 黑龍江(太平洋ニ入ルモノ)ハシベリアノ四大川ニシテ
 バイカル湖ハ當地ノ最大湖ナリ、但此等ノ江湖ノ事ハ
 已ニ記述セリ、

(4) 氣候 シベリアノ氣候ハ寒烈ヲ以テ有名ナリ、レ
 ナ河邊ヤクツクノ近傍ハ、周年ノ平均溫度零度以下十
 六度、寒中零以下五十八度、夏期ハ寒暖計九十九度ニ騰
 昇ス、然レドモ夜間ニハ四時トモ大抵霜ヲ降ス、而シテ
 土壤ハ年中凍結シ、夏時ニハ唯表土ノミ融解ス、南方ノ

物産

山麓ニハ、氣候稍溫和ナリ、此地ノ冬至ハ十一月ニシテ、
 積雪ハ三月マデ融消セズ、西南シベリアノトムスクニ
 於テハ、周年ノ平均溫度零度以上ニアリ、其極端チ云ヘ
 バ、一月ニ零度、七月ニ六十度ナリ、

(5) 物産 シベリア物産ノ主要ナルハ礦物是ナリ、金
 ハ諸所ノ川床ニアリ、又泰山ノ金ハ已ニ盡タルガ如シト
 雖モ、東方ノ諸山ニハ未ダ金鑛多ク産ス、鉛、銀、鐵、及ビ銅
 ハ泰山ニ産シ、石炭ハトムスク近傍ニ出ツ、石墨ハイル
 クツク並ニエニセイ地方ニ採掘シ、近來有要ノ商品タ
 ルニ至レリ、礦産ニ次グモノハ獸皮ニシテ、野獸ノ貴重
 スベキモノヲ貂、黃鼠、麋鹿、熊羆、狼、狐トス、虎ハ南方シベ

人種

リアニアリ、川ハ魚類多ク、又北方シベリアニハ、地中ニ多ク象牙ヲ埋藏ス、蓋シ北シベリアハ實ニ古象(マシモス)ノ墓地ノ如シ、古象古來此地ニ棲息セシガ、氣候ノ變化ヨリ盡ク死亡シ、今ハ其死体ヲ地中ニ遺スノミ、而シテ此地寒冷ニシテ、土壤凍結スルヲ以テ、象ノ肉皮尙依然トシテ存在ス、南方ノ山麓ハ農業ニ適シ、克ク大麥、小麥、燕麥等ヲ産ス、

(6) 人種 シベリアノ住民中、最多數ヲ占ムルモノハ、歐洲ノ東方ヨリ此地ニ來リ、西南シベリアノ平原、四大川ノ河口等ニ居テ構ヘタル露西亞人若クハ其子孫ナリ、其數今日ニアリテハ、二百八十萬ニ達シ、遙カニ土著

ノ人口ニ超過ス、

「シベリアクス」ト稱スルハ其源ヲ露西亞人若クハ「ポーランド」人ニ仰グ人種ニシテ、色麗ク、面平圓ニシテ、頰骨秀ツ、其性狡猾ニシテ、強性ノ酒ヲ嗜ムト雖モ、克ク節儉ヲ勤メ、又氣慨アリ、勉メテ交誼ヲ重ンズ、此人種ハ國事犯或ハ其他罪科ノ爲メシベリアニ放逐セラレシ者ノ子孫タリ、

土著ノ人種ハ韃靼人、蒙古人、「トングス」人、「ナスチアク」人、「サモイツ」人等ヲ以テ成ル、或ハ農業ヲ勤メ、或ハ獵夫漁夫ト成リ、又或ハ水草ヲ逐テ移リ、以テ牧畜ヲ事トス、南東邊境ニハ支那人多シ、

シベリアニハ基督教、佛教、黃教、回々教及ビ猶太教アリ、
 教育ノ行ル所ハ西南ノ純然タル露西亞都市ニ限ルナ
 リ、但此地方ニハ、中學及ビ師範校アリ、而シテ千八百七
 十八年ヲ以テトムスクニ大學ヲ起セリ、
 (7) 邦制貿易都市、シベリアノ土地ハ盡ク露政府ノ
 所有ニシテ、政府ハ之ヲ分割シ、町村組合並ニ一箇人ニ
 貸附ス、

トボルスク(人口一八、〇〇〇)ハ西シベリア政廳ノ所在
 ナリ、西シベリア政廳兩別シトボルスク及ビトムスク
 廳ト成ル、バイカル湖近傍ノイルクツク(人口三二、〇〇
 〇)ハ東シベリアノ首府ニシテ兵壘アリ、東シベリアハ

イルクツク、エニセイク、ヤクツク、バイカル湖、東州、黑龍
 江州、及ビ日本海ニ瀕セル沿海州ノ六州ニ別ル、樺太島
 モ亦沿海州ニ屬ス、

(8) シベリアハ金屬、獸皮或ハ小麥ヲ歐洲ニ輸出ス、
 而シテ支那ヨリノ通商貿易ハ、支那ノ海港開披以來、稍
 衰微セシト雖モ、尙未ダ重要ノ貿易タリ、主要ノ貿易路
 ハ蒙古境ノキアクダヨリアンガラ河邊ノイルクツク、
 ナ過、ギエニセイ河ノクラスノヤルスク、オビ河ノトム
 スク(シベリア中最モ富有ニシテ、又最モ開ケタル都市、
 人口二六、〇〇〇)及ビイルテス河ノタラ等ヲ通り、ウラ
 ル山中ノエカテリンブルグニ出ヅルモノ是ナリ、支那

茶ノ此路ニ依リ歐洲ニ到ルモノ多シ、旅程凡六ヶ月、夏期ニハ馬背或ハ舟楫ノ便ヲ藉リ、冬日ニハ雪車ヲ以テ、バイカル湖ヲ横ギリ、積雪上ヲ走ル、イルクツクヨリレナ河ニ依リ、ヤクツクニ達ス、一路アリ、獸皮或ハ象牙ヲ運輸スルノ道タリ、夏期ニハオビ、エニセイ、黑龍江ノ諸川並ニバイカル湖ニ汽船ヲ浮ブ、亦カラ海ニ依レバ、直接ニ歐洲西方ト貿易ヲ爲スヲ得、シベリアニ萬國電信線アリ、以テ洋ノ東西ヲ接續ス、其線ノ一支日本ニ達ス、オビ河上流ノバルナウルハ泰山鑛業ヨリ生ズル貿易ノ中心タリ、人口壹萬四千ヲ有ス、
 太平洋岸ニ於ケル要害ノ地ハ浦鹽斯德ナリ、沿海州ノ

西南角即チ日本海ノ入江ニ位ス、其他黑龍江口ノニコラエウスク、オコツク海頭ノオコツクカムチツカ東南岸ノペトロポウロスク等ハ皆太平洋岸ニ於ケル要港タリ、

考加佐須記

(1) 露領考加佐須軍區ハ考加佐須山ヲ中央トシ、北ハ歐羅巴露西亞ノ平原ニ擴リ、南ハシタルシア及ピアルメニア等ノ地方ニ亘ル、故ニ其一部ハ歐洲ニ屬シ、他ハ亞細亞ニアリ、面積十七萬九千五百廿方哩、人口五百七十萬ニ近シ、

(2) 地勢、地形ノ最モ著シキモノハ中央ノ考加佐須

河川

山ナリ、西ハ黒海、アゾフ海ト相別ル所ニ起リ、東南走シテ裏海ノ西岸ニ終ル、連峯中ノ最高頂ハエルブルツ峯ニシテ、高サ壹萬八千五百二十六呎、峠ノ最要ナルハメリエル阪及ビアルバニア關是ナリ、甲ハ海面ヲ抜クフ八千二百十五呎、

山中森林多ク、南側ニハ米、綿、生糸、藍、煙草、葡萄等ヲ産シ、又材木ヲ出ス、夥シ、北面ニハ牧場アルノミ、西方ニハ、雪境線九〇〇〇乃至九、五〇〇呎ニアリ、東方ニハ一、二〇〇〇呎ニ達ス、

(8) 川河、山中ヨリ北流スル川ニハテレンク川及ビクバン川アリ、前者ハ裏海ニ入り、後者ハケルチ海峽ニ於

テ黒海ニ注グ、又山北ノ平地ニマニツ川アリ、軍區ノ北界ヲ作ス、

考加佐須山ノ南方ニハ、クル河東流シテ裏海ニ入り、リナン川西走シテ黒海ニ朝ス、兩川ノ南方ハ即チアルメニアノ高原ニシテ、ゴクナ湖此ニアリ、水極メテ清ク、海面ヲ抜クフ六千三百四十呎、而シテ軍區ノ南端ハ露西亞、比耳西亞及ビ土耳其其三國ノ國境ナリ、アララト山巍然トシテ此ニ起リ、一萬六千九百二十呎ノ高キニ達ス、其頂上ニハ千秋ノ雪、萬丈ノ氷河アリ、千八百七十七年ノ戰爭ニ由リ、露領擴リテ、チタルク河ニ達セリ、チタルク河ハバトム港ノ南ニ當リ、黒海ニ入ルモノニシテ、河

記須佐加考門事記

北ニ鐵壁トモ稱スベキカルス兵壘アリ

(4) 住民 考加佐須地方ノ住民ハ互ニ風俗言語等ヲ異ニシ、少クモ四人種ニ別ル、露西亞人並ニ其殖民(二割六分)ハ印度歐羅巴人種ニ屬シ、アルメニア人、チセト人、タテ、人、クルツ人及ビ比耳西亞人(一割九分)ハ、イヲニア人種ニ屬シ、考加佐須人ハ全人口ノ三割一分ヲ占ム、此種ニ入ルベキモノハ、シナルジア人、レスギア人、チエチエシツ人、其他山中ノ蕃族等ナリ、之ニ加フルニ、韃靼人、土耳其人、カルムク人等ヲ以テ代表セル蒙古人種(二割五分)アリ、而シテ又猶太人、アシリア人モ此地ニ少ナカラズ、宗教ハ基督教及ビ回々教ナリ、

書科教理地氏如

(5) 區劃 行政ノ便宜ヲ計リ、國ヲスタチロゴル、クバ
ン、テレク及ビダグヘスタンノ諸州ニ別ツ、皆考加佐須山
ノ北方ニアリ、而シテ山ノ南方ニハバクエリザベトボ
ル、エリバン、テ、フリスクタイス等ノ諸州アリ、之ノ外ス
クムノ軍區、黑海沿岸地アリ、西南方ノカルス及ビバト
ムハ新ニ占領セシ地方ナリ、

(6) 都市 テ、フリス(人口一〇四、〇〇〇)ハクル川ノ上
流ダリエル峠ノ南麓ニアリ、此地方ノ太守ノ居ル所タ
リ、ストロウボルハ考加佐須山南地ノ首府、デルベンド、ハ
裏海ノ要港、バクモ亦裏海岸ニアリ、石油田ヲ以テ著名ナ
リ、セマカ及ビヌカハ東考加佐須山ノ南麓ニアリ、多ク

生糸ヲ産スボテ、ハ黒海ノ要港、テ、フリスヨリ鐵路此ニ至ル、

露領中央亞細亞記

(1) 露領中央亞細亞ハイル、テス河及ビウラル河間ニアル平原ヨリ、裏海以東、アラル海以南ノ地ニ亘リ、舊土耳其斯坦領ニ跨ル、廣袤凡百廿八萬三千四百七十方哩、人口四百四十萬ニ餘ル、

(2) 本領地ノ北方ハ即チキルギヅ高原ノ礪地ニシテ、所々ニ鹹湖及ビ沙漠アリ、冬期寒氣甚シク、颶風雪ヲ卷テ白雲ヲ起シ、夏日ハ熱瓶中ニ坐スルガ如シ、土人ハ遊牧ノ民タルニ過ギズ、露西亞人寨ヲ築キ、所々ニ居ルト

雖モ其數極メテ僅少ナリ、

(3) 南方ハバルカス大鹹湖ヨリ、南天山ノ頂上ニ達シ、西ハアラル海邊ニ及ブ、西方ノ地ハ赭地沙漠多ク、住民ナシ、東方ハガスカ湖以南ノ七川境ヨリ、次第ニ隆起シ、天山以北ノ山村ニ達ス、此地森林ニ富ミ、又シル、ダリアノ涵養セル豐富ノ村落アリ、

(4) 露領土耳其斯坦中最要ノ地ハイリノ河邊、シル、ダリアノ近傍及ビ南方ノセラフシ、ン地方是ナリ、而シテ都市ノ著名ナルハシル、ダリアノ南ニコカン府アリ、人口五萬其北方ニタスケンド府アリ、人口八萬六千、露領土耳其斯坦ノ最大市ナリ、此府ハ此地方ノ隆盛ナル市

場ニシテ、隊商多ク此ニ輻湊ス、セラフシ、ンノサマルカ
ンドハ一時勢力ヲ逞フセシタメルン帝國ノ京城タ
リシヲ以テ有名ナリ、人口三萬有餘、

(3) アラル海ノ西ニウスト、スルト、ト稱スル赫地アリ、
幅三百哩ニ達シ、海面ヲ抜ク、凡六百呎、之近年露政府
カ干戈ニ依テ占有セシ土地ナリ、此ニ露國ノ兵營アリ、
又鐵路ヲ布設シテ、軍用及ビ運輸ノ便ニ供ス、
信回々教地方

皮路直坦國及亞加業坦國記

皮路直坦 一〇六、八〇〇方哩 人口 三五〇、〇〇〇
亞加業坦 二七、八六〇〇方哩 人口 六一、四五〇〇〇

(1) 比耳西亞高原ノ東半、即チ東方ヒンドクス山ノ一

流ヲ以テ界セル地ハ「アフガン」及ビ「ベルナス」人ノ居ル
所タリ、地形崎嶇トシテ、沃野ナク、民勇悍ナルモ、皆矇昧
ノ蕃族タルニ過ギズ、深ク回々教ニ心醉ス、然リ而シテ、
此地東方ニ英領印度アリ、北方露西亞ノ強國ト接スル
ヲ以テ、政事上ヨリ云ヘバ、極メテ緊要ノ國タリ、

皮路直坦國

(2) 地勢 東方ハハラ及ビクルクレキノ連峯ヲ以テ
界シ、南方モ亦一帯ノ山脈ヲ隔テ、亞良比亞海ニ臨ミ、中
央ハ磽确ノ高原ニシテ、一流ノ河水ナシ、以是冬極メテ
寒ク、夏極メテ熱シ、唯東北隅ニカナヒ、ガンダヴァト稱ス
ル沃野アルノミ、

勢

地

書科教理地氏如

(3) 人種 ハ「ベルナス」及ビ「ブラヒ」ノ兩族ニ別ル「ベルナス」族ハ「セマイト」族ニ屬スルガ如ク、其數甚ダ少シ「ブラヒ」族ハ蒙古人種ニ類ス、顔圓坦ニシテ、容貌矮少、其言語全ク「ベルナス」人ト異ナリ、

亞加業坦國

(4) 南皮路直坦ヨリ北オクサス河ニ達シ、東北ハヒンドクスニ至リ、西ハ比耳西亞ニ界セル山國アリ、亞加業坦ト稱ス、幅員凡五百哩、
(5) 地勢 東北隅ノヒンドクス山別レテ數派ト成リ、西南流シテ國內ニ入ル、ヒンドクスノ高サ二萬呎ニ越

如氏地理教科書
ル所アリ、東方スレイマン連峯ヲ以テ印度ト境シ、川ニハヘルマンド及ビムルガブ等アリテ國土ヲ潤ス、山間沃野多シ、
(6) 氣候 土地高低ノ差甚シキヲ以テ、氣候亦地方ニ從ツテ大ニ異ナリ、然レドモ大体ヨリ云ヘバ、氣候乾冷ニシテ、健康ニ宜シク、又春夏秋冬ノ四季アリ、
(7) 物產 國內人口少ナキヲ以テ、不毛地多シト雖モ、亦開拓セシ地ナキニ非ズ、山林ニハ松、柏、檜、栗等アリ、園ニハ薔薇、玉簪花ヲ養フ、野獸ノ主ナルハ鹿、狼、熊、豪狗、羊、山羊、羚羊等ニシテ、獅子ハ稀ニ見ル所タリ、亞加業坦ノ馬ハ優種ナリ、多ク印度地方ニ輸出ス、川床ニ金アリ、

銅及ビ鐵ハ東北ノ地方ニ産ス、
 (8) 人種、亞加業坦ハ一致セル獨立國ニ非ズシテ、四分五裂セルモノナリ、諸州ノ住民或ハ互ニ衝突ヲ連ネテ以テ自ラ守リ、或ハ又敵視シテ干戈ヲ交ユ、而シテアフガン族ハ國中ノ主要ナルモノト雖モ、其他七八ノ蕃族アリ、アフガン族ハ其口碑ニ依レバ「セマイト族」ニ出ルガ如シト雖モ、其言語ヨリ察スレバ「アリアン族」ニ屬スルヲ殆ド疑ヒナシ、北方ニ「ハザラ」ト稱スル蕃族アリ、遊牧ノ民ニシテ、恐クハ韃靼人或ハ蒙古人ノ子孫ナラン、西方ニハ比耳西亞人多ク、東邊ニハ印度人少ナカラズ、
 (9) 貿易、亞加業坦ノ産業ハ幼稚ノ農業ニ止ルナリ、

然レドモ亦粗製ノ絨布、古風ノ兵器ヲ出ス、而シテ印度ノ行商ハ木綿、綿紗、絹、砂糖、香物等ヲ輸入シ來リ、馬、獸皮、菓實等ヲ此地ヨリ輸出ス、西洋品ハ印度或ハ土耳其斯坦地方ヨリ入來ス、ヘルマンド河上流ノカンダバルハ人口稠密ニシテ、比耳西亞及ビ印度間ノ貿易市場ナリ、
 土耳其斯坦國記

(1) 亞細亞露西亞ノ南、亞加業坦境ノ北方ニ一帶ノ地アリ、名義上獨立國タリト雖モ、千八百八十三年ノ初メ、メルブノ酋長露政府ト君臣ノ約ヲ結ビシヨリ、實際ニ於テハ、前陳ノ地已ニ獨立タルヲ失シ、今日ニアリテハ、露領亞細亞境及ビ亞加業坦國境互ニ相接シタリ、

キヅ

(2) 土耳其斯坦ノ西北部ヲキヅト云フ、面積二萬二千三百二十方哩、人口七十萬、沃地ハオクサス河ノ下流ニアリ、土着民ヲ「ウツベグ」ト云フ、其他「タルコマン」「キルギツ」及「ヒ比耳西亞人」等アリ、貿易ハ皆行商ノ從事スル所ニシテ、行商ハ夥多ノ駱駝ヲ牽ヒテ往來ス、首府ヲキヅト稱ス、唯露西亞人ノミ自在ニ此ニ通商スルヲ得、

ボカラ

(3) キヅノ東隣州ヲボカラト云フ、一時隆盛ヲ極メタリ、オクサス河ノ灌水ヲ被ル所地豊饒ナリ、然レドモ其他ハ概チ砂地トス、水利ノ宜シキ所綿、生糸、穀物等ヲ産

ス、シベリア及ヒ支那ト陸上貿易アリ、多數ノ住民ハ「ウツベグ」族ニシテ、其他又亞加業坦人、亞夏比亞人等アリ、普通教ハ回々教トス、首府ヲボカラト云フ、沃野中ニアリ、四近ニ數十ノ運河ヲ構ユ、

「タルコマン」領地

(4) オクサス河及ヒ比耳西亞北境ノ間ヲ「タルコマン」領地トス、土地沙漠ノ如シ、然レドモ細流アルノ所又耕地アリ、住民ハ主ニ韃靼人ヲ以テ成ル、別ニ一定ノ政府ナシ、此地方ノ民千八百八十三年ヲ以テ、親ヲ露西亞政府ニ歸服セリ、

地勢

比耳西亞國事記

(〇七四)

氣候

比耳西亞國記

(1) 比耳西亞(トキイラン)ハ北ハ裏海ニ臨ミ、南ハ比耳西亞灣ニ瀕シ、東ハ亞加業坦及ビ皮路直坦ニ隣シ、西ハ土耳其ニ接ス、面積六十三萬六千方哩、人口七百萬餘、

(2) 地勢 國內概テ高原ニシテ、高サ二千乃至三千呎、平地ハ比耳西亞灣瀕及ビ裏海岸ニアルノミ、川ノ裏海ニ入ルモノニキシル、ウゼン及ビアトレクアリ、ユーフラテス河ニ注グモノニカルン及ビカルカアリ、湖ノ著名ナルハ西南隅ノニリス及ビシラツトス、國內沃野少ク、唯水利ニ便ナル所田園アリ、

(3) 氣候 寒暖ノ差極メテ甚シク、高原中ニアリテハ、

宗人

如氏地理教科書

(一七四)

寒暖計零度以下ヨリ百十二度ニ達ス、恒風ノ西北ヨリ來ルモノハ乾寒ニシテ、東南ヨリ至ルハ溫濕ナリ、南方比耳西亞灣邊ニハ、夏日ノ熱氣烈シト雖モ、春分ニハ愉快ノ氣候アリ、高原ニハ、夏極メテ熱ク、冬極メテ寒シ、裏海瀕ノ氣候ハ我氣候ノ如シ、

(4) 人種及宗教 比耳西亞ノ國民ハ大別兩級ヲ爲ス、甲ニハ農家、商家及ビ工匠アリ、乙ハ遊牧ノ民ナリ、甲級者ハ「タシク」族即チ古代比耳西亞人ノ子孫ニシテ、乙級ニハ北境ノ「タルコマン」西南ノ「クルツ」ヲル「亞良比亞人」等ヲ含有ス、普通教ハ回々教ナリ、上流比耳亞人ハ才智アリト雖モ、概シテ猥褻ノ風アリ、下等社會ハ極メテ貧

屢ナリ、而シテ教育ノ一點ニ至リテハ、之ヲ隣國ニ比スレバ、漸見ルベキ所アリ、

(5) 物産貿易産業 水利便ナルノ所、土地極メテ豐饒ニシテ、小麥、綿米、砂糖、煙草等ヲ産ス、桑ハ廣ク耕ス所ニシテ、絹糸ハ比耳西亞有名ノ産物ナリ、礦物産ハ乏シキモ、美麗ノ土耳其石ハエルヅルツ山中ニ出ヅ、

家畜ニハ馬、駱駝及ビ羊アリ、比耳西亞馬ハ亞良比亞馬ノ如ク、駿速ナラズト雖モ、亦亞細亞ニ著名ナルモノナリ、野獸ニハ獅子、彪、狼、虎、山猫、豪狗、猪アリ、裏海ニ注グ川河中ニハ鮫類多シ、

比耳西亞ノ工業ハ大ナラズト雖モ、製品中ニハ著名ノ

モノアリ、比耳西亞ノ絨氈、絹布及ビ刀劍等ハ皆人ノ愛スル所タリ、貿易ハ主ニ隊商ノ從事スル所ニシテ、繁昌セズ、國中好良ノ道路ナシト雖モ、電信線所々ニ縱横ス、

(6) 政体 政体ハ君主擅制ニシテ、生殺與奪ノ權皆君主ニアリ、君主ノ下ニ内閣アリ、政府別レテ七省ト成ル、國ヲ數州ニ別テ、各州ニ知事ヲ置テ之ヲ治ム、知事ハ通例皇族ヲ以テ之ニ任シ、之ニ文武ノ兩職ヲ委ヌ、税ノ一部ハ米、麥、絹等ノ物品ヲ以テ納メ、一部ハ貨幣ヲ以テ納ム、都市ニハ人民知事ヲ撰任スルノ權アリ、常備兵三萬、後備軍之ニ三倍スト云フ、

(7) 都市 タブリヅ、カスヴン、イスフハン、及ビシラヅ

ハ皆比耳西亞ノ舊都ナリ、現今ノ京城ヲテヘラント云フ、ダマウン、ド山ノ麓ニアリ、此ニ中央政府ヲ置ク、シウヅ府ノ東北凡四十哩ニ有名ナルベルセポリスノ舊跡アリ、ダリアス王、ザルクザス王、アルタザルクザス王等ノ盡力シテ修飾セシ所タリシガ、歴山大王東征ノ際之ヲ破壊セリ

亞細亞土耳其國記

(1) 概勢 土耳其ハ亞細亞ノ西隅ニアル一大國ナリ、北ハ黑海及ビマルマラ海ニ瀕シ、西ハエギアン海地中海及ビ紅海ノ洗フ所ト成リ、東南比耳西亞灣ニ臨ム、其

他連山ニ依テ、比耳西亞ト境スル所アリ、シリアノ沙漠ニ依テ、亞良比亞ト相隔ル所アリ、地形ニ從フテ、國內ヲ北方ニ於テハ、小亞細亞、アルメニア、クルデア、スタンニ、南方ニ於テハ、メソポタミア、バビロニア、シリ、ア、及ビバ、レ、ス、テ、ン、ヘ、ジ、ヅ、及ビ、エ、メ、ンニ別ツ、蓋シ此國ハ世界ノ舊國ニシテ、古史ニ關係ヲ有スルコト少ナカラズト雖モ、累世ノ君主暴政ヲ行ヒシニ由リ、國勢日々ニ衰へ、將ニ亡滅ニ歸セントスルノ徵アリ、面積七十二萬九千方哩、人口千六百十五萬餘

土耳其所屬ノ島嶼ハ主ニエギアン海ニアリ、然レドモ其最大ナルハ地中海ノサイプラス島是ナリ、面積三千

地形

七百二十三方哩、人口十八萬ニ過グ、本島ハ古來銅及ビ
 其他礦物ヲ出セシヲ以テ、古史ニ著名ナリ、而シテ他ノ
 島嶼ノ物産ニハ麥、葡萄、無花果、蜜、木蠟、木材等アリ、
 (2) 地形 地形上ヨリ云ヘバ、土耳其ハ別レテ三大區
 ト成ル、北方ハ即チ小亞細亞アルメニア、及ビクルデ、ス
 タン等ノ深山ニシテ、山峯ノアララト峯壹萬六千九百
 十六呎ニ達スルモノアリ、第二ハユーフラテス河溪ノ
 平原ニシテ、メソポタミア、バビロニア等此内ニアリ、原
 平均ノ高サ二千呎ニ過ギズ、第三ハシリヤ、ヘンジ、及ビ
 エメンノ地方ニシテ、即チ紅海ニ瀕スル山村ナリ、此地
 方ニ有名ナルレバノン山(高サ壹萬呎)及ビ死海(其水面

河川

地中海ノ水面ヲ下ル千二百九十二呎アリ、
 (3) 川河 土耳其ハ大國ナレバ、川河固ヨリ數條アリ
 ト雖モ、其最モ著名ナルハユーフラテス及ビタイグリ
 スノ兩川ナリ、ユーフラテスハアルメニア山間ニ源ヲ
 發シ、タイギリスハ其東方ニ湧出ス、共ニ東南走シ、合シ
 テ比耳西亞灣ニ入ル、ユーフラテス河ノ航行シ得ベキ
 距離千百哩、タイギリス河ハ六百哩間舟楫ノ便アリ、河
 ノ長サ凡二千哩、其他裏海ニ注グモノニアラス河、黑海
 ニ入ルニハリス河アリ、又死海ニ入ルジナルダン川ハ舊
 史ニ著名ナリ、
 死海ハ世界ニ有名ノ鹹湖ニシテ、土耳其ノ西方ニアリ、

其水面地中海ノ水面ヲ下ルコト前已ニ述ベタルガ如ク、千二百九十二呎ニシテ、長サ四十六哩、幅九哩ニ餘ル湖、水鹽氣甚シク、又土瀝青ノ泉アリ、以是水味ニ惡臭アリ、水濃厚ニシテ、人体モ沈マズト云フ、

(4) 氣候 北方高原ノ氣候ハ夏熱シテ、冬寒氣烈シク、東方ノ高峯ニハ四時雪ヲ冠スルモノアリ、西方ノ冬ハ嚴寒ナシト雖モ、溫度ノ上下スルコト甚シ、此地方ノ平地ハ通例豐饒ニシテ、橄欖、桑其他ノ木材ヲ出ス、黒海ニ面スル山側ハ濕氣多ク、山中森林ニ富ム、エギアン海邊ノ溪間ハ氣候溫和ニシテ、土地豐饒ナリ、地中海ニ面スルノ所、春冬ニ雨アリ、森林深フシテ斧斤未ダ

入ザルモノアリ、東方ノ海岸ハ橙、橄欖、葡萄、綿等ヲ生ズ、メソポタミア原ニ面スル所、氣候稍溫和ナリ、レバノン地方ノ高原ニハ、健康ニ宜キ氣候アリ、然レドモ此地沙漠ニ接スレバ、夏期ノ熱復タ耐ユベカラズ、紅海沿岸ハ概シテ乾旱ニシテ、赭地多シ、

(5) 人種及宗教 國內人口稀薄ニシテ、一方哩廿二人ヲ平均トス、總人口千六百萬、中ニ韃靼人種ニ屬スルモノ半分ニ充タズ、ナトマン族ニ出ヅルモノ漸ク四分之一ニ及ブ、土耳其人ノ農業ニ從事スルモノハ、溫和ニシテ健壯ナリト雖モ、官吏ハ已ニ腐敗セリ、アルメニア人ハ凡八萬ニシテ、ヴァン湖近傍ニ居ル、然レドモ亦銀行者或ハ

物産

高利貸ト成リ諸所ニ散在ス、騎馬ヲ以テ著名ナル「クル
 ヅ」人ハ其數凡百六十萬、ツン湖近傍ノ山中ニ在リ、未ダ
 蠻風ヲ脱セザルヲ以テ、四近良民ノ蛇蝎視スル所タリ、
 亞良比亞人ハ其數六百萬ニ超過ス、曾テ定住ナク、無數
 ノ家畜ヲ率井、水草ヲ逐テ移ル、馬及ビ木材ヲ賣買ス、希
 臘人ハ近海ノ島中ニ多シ、其數凡百萬、前陳人種ノ外、シ
ルカシア人猶太人等ヲ以テ、國民ノ主ナルモノトス、
 國內ニ回々教及ビ基督教ノ兩教アリ、回々教ヲ奉ズル
 モノ凡千三百萬、基督教ハ希臘人「アルメニア」人「シリヤ」
 人等ノ奉ズル所ニシテ、宗徒三百萬人ニ餘ル、

(6) 物産 國ニ礦産多ク、鐵ハ石炭ト共ニ所々ニ産シ、

銅ハ黑海沿岸ノ山中ニ出テ、銀鉛ハ東北隅ヨリ西南邊
 ニ至ル深谷ニ在リ、大理石ハ所々ニ出ツ、農産ニハ小麥、
 大麥、燕麥等アリ、地中海ノ沿岸ニハ果實、煙草、阿片等ヲ
 産ス、煙草ハ殊ニ有名ナルモノナリ、木材モ亦少ナカラ
 ズ、ユーフラテス河溪ニハ石油及ビ土瀝青アリ、アンゴ
ラハ山羊ヲ以テ著名ナリ、其毛ヲ「モーヘア」ト云フ、之ヲ
 製スレバ極メテ美麗ノ絨布ヲ作ス、工業ニハ未ダ記ス
 ベキモノナシ、地中海ノ海綿漁業ハ實ニ盛ニシテ、其收
 獲モ亦巨大ナリ、國中ニ良路ナキヲ以テ、運搬便ナラズ、
 物品ノ運送ニ巨額ノ費用ヲ要ス、故ニ内國ノ商業ハ誠
 ニ微々タリ、

(7) 分割及都市 亞細亞土耳其ハ別レテ廿二州ト成
ル州亦大小ニ由リ、二郡乃至七郡ニ分ル、アイデン州ノ
スミルナ(人口一五〇〇〇〇)シリア州ノダマスカス(人
口一五〇〇〇〇)アレボ州ノアレボ(人口七五〇〇〇)バ
グダッド州ノバグダッド(人口六七〇〇〇)等ハ皆有名ノ都
市ナリ、

海港ノ主要ナルモノニハ、黒海ニトレビゾンド及ビシ
ノブ、エギアン海ニスミルナ、イスカデルン灣ニメル
シナ及ビアレキサンドレタ、紅海ニゼルサレム、ジッ
ゼフ及ビホデイダアリ、

亞良比亞國記

(1) 概勢 亞良比亞半島ハ西ハ紅海ニ瀕シ、東ハ比耳西
亞灣ニ臨ミ、南ハ亞良比亞海ニ至リ、北ハシリア及ビバ
ビロニア平原ニ隣ス、土耳其ニ隸屬セザル地方ハ内地
並ニバレイン島及ビアデン間ニアル南方及ビ東方海岸
ナリ、此地方三分二ハ耕作ニ適シ、他三分一ハ沙漠トス、
地勢別レテ三境ト成ル、即チ北ノネジド、東南ノチマン
及ビ南方ノハドラマウト是ナリ、ネジドハ沙漠ニシテ
所々ニ翠境アリ、又椰樹ヲ産ス、北沙漠即チネフドハテ
イマノ翠境ヨリジッウフナ經、比耳西亞灣頭ノエル、ハサ
ニ達ス、土地盡ク礫礫、沙漠ノ最モ深キチダーナト云フ、
有民地ノ東南ニ在リ、沙漠ノ夏至線以南ニアルモノ三

百乃至四百哩、高サ凡三千呎、北沙漠ニハ有名ナルシ、
フノ翠境アリ、長サ六十哩、幅十乃至十二哩、三村落ナ有
ス、氣候乾燥ニシテ、健康ニ宜シ、
ネシド及ビシマールハ大氣乾燥ニシテ、健康ニ適シ、ネシ
ドノ南方ハ濕熱ナルモ、土地極メテ豐饒ナリ、棗樹、穀物、
檸檬、石榴、桃、葡萄、無花果、橙等ヲ出ス、綿モ亦生ズ、岩鹽ハ
西方ニアリ、駱駝、羊、牛、馬ハ極メテ多シ、亦猪、雉、鵝、鳩等アリ、
チマンハ半島ノ東南端ニアリ、大サ我國ト伯仲ス、地形
山深フシテ、南方ニハ細流數條アリ、期節乾潤ノ兩季ニ
別ル、乾節ニハ熱氣堪ユルヲ得ズ、潤節ニハ西南モンソ

一ノ風來リ雨ヲ降ス、山中ハ周年冷涼ナリ、物産ニハ椰子、
棗、穀物、咖啡、砂糖、杏桃、綿、藍等アリ、亦銅及ビ鉛ヲ産ス、
ハドラマウトハオマンヨリエメンニ擴ル、州内ノ模様
ハ未ダ詳ニセズト雖モ、山嶽崎嶇トシテ、高キハ六千呎
ニ達スルガ如シ、獨立酋長アリ之ヲ支配ス、大小麥及ビ
檸檬ヲ出ス、亦羊、山羊並ニ駱駝アリ、
(2) 人種、及宗教、中央亞比良ノ人民ハ二大別ヲ爲
ス、甲ハ「ハデシ」ト稱シテ、都市村落ヲ作りテ居リ、乙ハ「ベ
ドウ」ト名ク、水草ヲ逐テ移ルノ民ナリ、純粹ノ亞比
亞人ハ容貌紳士ノ如クニシテ、回々教ヲ奉ズ、「ベドウ」ハ
亞比良人ト源ヲ同フスト雖モ、殆ド道德ノ何タルヲ知

ラザルガ如キ野蠻ナリ、其有様二千年以前ト敢テ異ナルナシ、此族爾來大陽拜崇者タルモ、便宜ノ爲メ回々教

ヲ奉ズ、

(3) 政体分割及都市、ネジドハ別レテ三州ト成ルリ

アドハネジドノ首府ト云フベシ、人口三萬府ハ繞スニ

陸壁ヲ以テス、サマンハ八州ニ別ル、各州互ニ獨立スル

ノ姿アリ、首府チマスカトト云フ、人口四萬、善良ノ港アリ、貿易モ亦盛ト云フテ可ナリ、

アデンハアデン灣ノ北涯ニアリ、英國ニ屬ス、英國此ニ

砲臺ヲ築テ守ル、土地礫确ニシテ、降雨稀ナルヲ以テ、大

天水池ヲ作り、此ニ飲用水ヲ貯フ、

中等教育如氏地理教科書第二帙第二卷終

明治二十二年二月七日印刷

定價金五拾錢

同二十二年二月十五日出版

卷之三

同二十三年一月廿五日訂正再版

講述者

富士谷孝雄

東京府士族

牛込區東五軒町
三十五番地

發行者

內田芳兵衛

東京府平民

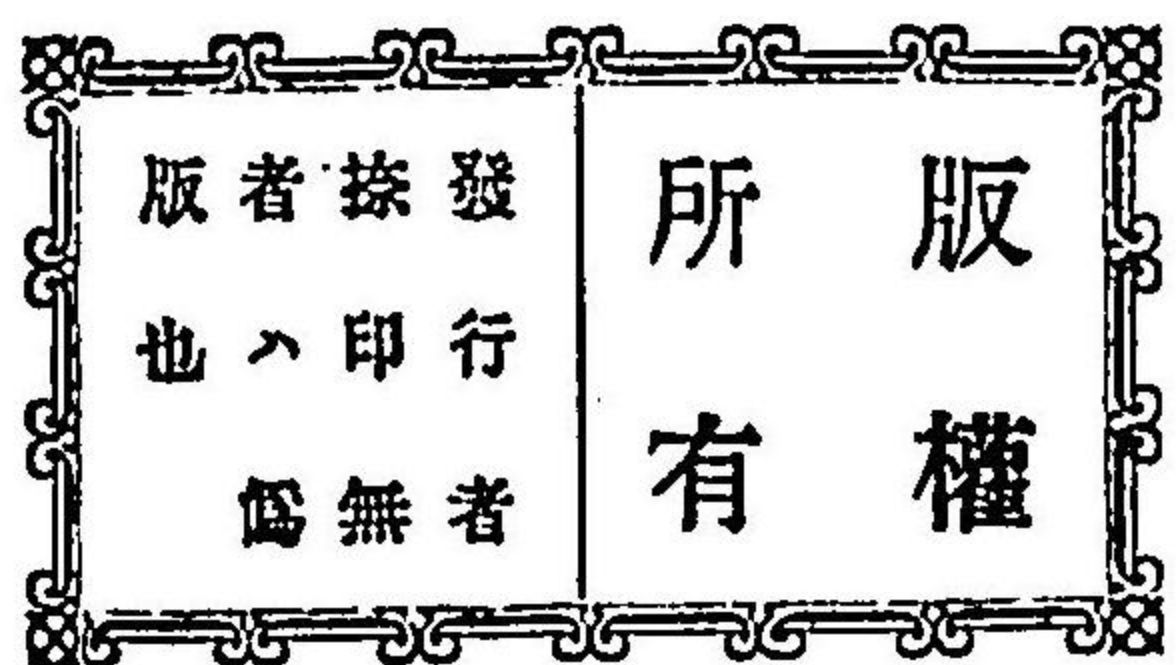
日本橋區大傳馬町
貳丁目拾六番地

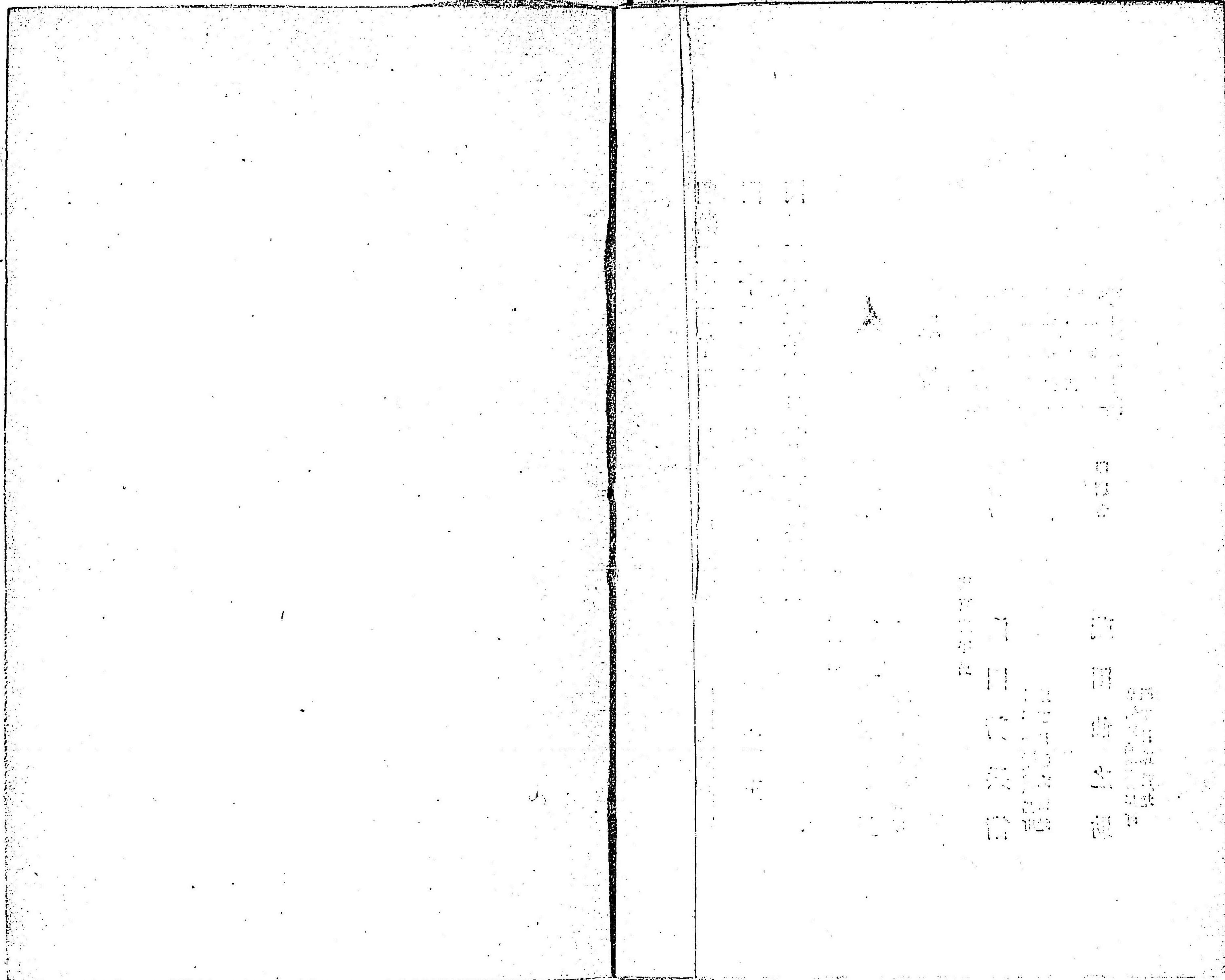


印刷者

藏田仙之助

京橋區元數寄屋町
四丁目貳番地





17
3
99



17
99

021985-003-9

17-99

如氏地理教科書

ケイス・ジョンストン/著

富士谷考雄/述

M21-23

ADA-0242



